

昭和五十三年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會

目次

| | | |
|-----------------|-------|----|
| 日時 | | 一 |
| 場所 | | 一 |
| 出席議員 | | 一 |
| 欠席議員 | | 一 |
| 出席説明員 | | 一 |
| 出席事務局職員 | | 一 |
| 議事日程 | | 一 |
| 開議 | | 二 |
| 行政一般通告質問 | | 二 |
| 本問 昭二君の質問、当局の応答 | | 二 |
| 五十嵐 昇君の質問、当局の応答 | | 四 |
| 石井 輝久君の質問、当局の応答 | | 一一 |
| 松下 正己君の質問、当局の応答 | | 一二 |
| 矢戸 寿夫君の質問、当局の応答 | | 二四 |
| 渡辺軍治郎君の質問、当局の応答 | | 三〇 |
| 散会 | | 三九 |
| 本会の会議に付した事件 | | 四〇 |

一、昭和五十三年十二月十八日（月曜日）午前十時
館山市役所議場

二、出席議員 二十八名

| | |
|------------|-----------|
| 一番 吉田 勇治郎 | 二番 伊藤 幸太郎 |
| 三番 矢戸 寿夫 | 五番 黒川 平治 |
| 六番 鈴木 正義 | 七番 本間 昭二 |
| 八番 松下 正己 | 九番 鈴木 稔 |
| 一〇番 流山 源次郎 | 一番 近藤 好雄 |
| 一二番 栗原 一雄 | 一三番 林 豊 |
| 一四番 石井 輝久 | 一五番 辻田 実 |
| 一六番 安西 益男 | 一七番 石井 武敏 |
| 一八番 渡辺 軍治郎 | 一九番 渡辺 昭夫 |
| 二〇番 和田 一郎 | 二二番 五十嵐 昇 |
| 二三番 菊井 敏博 | 二四番 西村 真次 |
| 二五番 伊賀 多朗 | 二六番 藤田 益治 |
| 二七番 遠山 ヨネ子 | 二八番 石井 正 |
| 二九番 望月 照正 | 三〇番 山口 康 |

三、欠席議員 二名

| | |
|---------|-----------|
| 四番 押元 稔 | 二一番 田中 祿郎 |
|---------|-----------|

四、出席説明員

第一号に同じ

五、出席事務局職員

第一号に同じ

六、議事日程（第二号）

昭和五十三年十二月十八日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時三分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切りの日の十二月十三日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあらうかと思いますが、本日は通告者ののみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

七番議員本間昭二君。

（七番議員本間昭二君登壇）（拍手）

○七番（本間昭二君） ただいまより通告質問を行います。

市長は、先の定例会で、五十二年度的一般会計決算において実質収支で二億一千四百八十六万五千円の黒字、単年度収支で一億

五千四百九十六万八千円の黒字決算を遂げることができたので、来年度以降計画しているし尿処理場建設事業、大規模な建設事業の財源に充てるための財政調整基金積立金二億円の積み立てをする、また、市長は、人間尊重、市民生活優先を市政の基本理念とし、生きがいのある香り高い文化福祉都市の実現、館山市根幹事業実施計画に基づく基礎的条件の整備、生活環境の整備等向上に努めると提唱されました。その観点に立ちまして二、三質問いたします。

第一点は、し尿処理場建設予定地についてであります。私の質問の趣旨は予定建設地と周辺部落民との意見を求めたらどうかの質問でございますので、一昨日の全協での質疑で了解いたしましたので質問は取り下げますが、一部反対派との話し合いを十分され、一日も早く完成を期して、この質問は打ち切ります。

第二点は、青年館維持費についてですが、市内に三十八館の青年館があります。古い館は十年以上、また破損のけなはだしい館等は部落に財源が乏しく、維持費の捻出に困っており、青年館の設置及び管理に関する条例第六条で破損または滅失した場合は、市長の認定により損害を賠償する、また第五条で使用料は徴収しない、また市と地元との契約書の中の第五条で維持管理に要する諸経費は部落の負担となるとなっているが、条例または契約書の一部を改正して、市で全部または一部の負担をすることができないかどうかをお伺いいたします。

第三は市道の舗装化についてであります。現在の市道は延べ何キロぐらいあるのか、その中で何%が舗装化されているか。

また、生活道、四メートル以下の里道の道路の分も合わせてお

聞かせ願いたいと思います。

また、今後年にどのくらいの割合で舗装化していくのか計画がありましたらお知らせ願いたい。

また、市道、里道を定期的に巡回しておられるかどうかお聞きいたします。

以上、私の通告を終わります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 本間議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、青年館の維持費について市で負担できないかというお話でございますが、御質問のように青年館の維持管理については条例及び運営要綱に基づき地元自治会等と委託契約を締結して、一切を地元において管理をお願いしているわけでございます。したがって通常の修理等についても地元で負担するたてまえになっているわけでございます。

御指摘のように建設後十年以上の館が十二館ほどあるわけでございまして、ガラス、雨戸、雨どいなどの修理が必要になってきている館があるわけでございます。大体平均いたしまして一館当たり年に三万円くらいの費用負担がかかっているようにございます。

他市の状況等見ましても修理費について公費負担をしているところが若干ございますけれども、大部分は地元負担となっているわけでございますので、現在のところは地元の集金施設でもあるわけでございますので、今後も小修理程度は地元で負担していただきたい、そういうふうに考えております。

御質問の第二点は、市道の舗装化の問題でございますが、現在市内の幹線道路は大部分が舗装されましたけれども、まだ残る未

舗装市道や生活道路についても引き続き舗装してまいりたいと考えているわけでございますが、現在幹線道路の舗装率は八一%が舗装できているわけでございますので、従来三メートル以上の市道についてこれを舗装してまいりましたけれども、現在は三メートル以下の支線も各地の実情に応じまして舗装を実施しているわけでございます。

なお、定期的には市道の状況をバトロールはしておりませんが、常により工事の合間をみまして道路の実情を見ておりますので、定期的に見る以上に綿密なといえますが、回数を多く道路状況を視察していると申しても過言ではなからうかと思えます。

以上の状況でございます。

○七番(本間昭二君) 小修理は部落のほうでお願いしたいというんですけれども、雨漏りというのは非常にあるようでございまして、屋根をふきかえるというようなことになるかと相当な金がかかると思うんですけれども、小修理はどの程度の額のことをおっしゃっているのでしょうか。

また、道路の舗装化のことでございますけれども、これは土木課へ申し込み順にやっておるのか、またはなほだしい破損の箇所とか、ぜひこれが必要であるというのの申し込み順でなくて積極的におやりになっておるのか、その点もお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長(石井 謙君) 小修理の場合にはどの程度かというふうな御質問でございますが、日にちもそうかからずに部落の関係ででき得るようなもので、たとえば大修理の場合につきましては屋根がえとか、そういうような場合が考えられるわけですが、そ

ういうような場合については金額的に幾らというようなことはつきりは申し上げられませんが、その時々によりましてその管理運営者と協議いたしまして行いたい、こういうふうに考えております。

○経済部長（太田博雄君） 先ほどの市道の総延長の件でございませけれども、市道の総延長は四百九キロメートルでございませ。それからその他で三百二十六キロメートルでございませ。

それから、舗装の件でございませけれども、住民からの申し込み順にやるかということですが、特に狹隘な道路につきましては拉輻しなければならないというような場合もあるわけでございます。こういう点につきましては、地元の協力をいただく意味におきまして申し込みによって実施する場合もございませけれども、現在のところ実態を見まして悪いところは逐次舗装してあるというようなことでございませ。

○七番（本間昭二君） わかりました。

以上で再質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で七番議員君の質問を終わります。

次、二二番議員五十嵐 昇君。

（二二番議員五十嵐 昇君登壇）

○二二番（五十嵐 昇君） 私は今次定例会に提案されました議案審議に先立ち、半澤市政が第二期目を迎え、第一期を基盤とし、さらに飛躍せねばならぬ第二期目に当たっていかなる施策をなさるうとするのか、山積する館山市政の主要問題のうちから大きく福祉問題と教育問題の中から以下質問しようと思うものであります。

質問の第一点といたしまして、市長は本年度三月の定例会の

劈頭の施政演説において、私は昭和四十九年十二月市政を担当して以来満三年、人間尊重また市民生活優先を市政の根本理念とし、明るく豊かな住みよい文化福祉都市の実現に向かって最善の努力をする」と公約されたのであります。

その結果、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育環境づくり、産業の基盤づくりの四点を主要施策に挙げられ、積極的な予算の編成とその実行により、着々と実績を上げられている点は大いに評価し、敬意を表するものであります。

すなわち、必要不可欠な福祉領域としての道路舗装整備も、本間議員のただいまの質問の答弁によりまして大半以上、八〇%完了という御報告を受けておるのであります。また住む住宅問題につきましても、低所得者層を対象とした那古住宅の建設、公園整備に関して一中の跡地の利用の市民運動場の新設、一中、二中の敷地内に建設される市民体育館の新設、それに加えて仮称館山運動公園の建設への第一歩の着工と、着々に実施の運びとなつたことは、市民の一員といたしまして喜びにたえない次第であります。

福祉社会づくりの中で最も大事なことは、中高年齢層に対する福祉、すなわち老人福祉の問題であらうと存するのであります。

この点につきまして、市長はいち早く庁舎内に高齢者及びバートタイマーの職業相談室を開設すべく設置要望書を作成し、近く館山職安を通して県知事へ送付する云々とありますが、まことに時宜を得た施策であると信じて疑がわれないものであります。

そこで、お尋ねしますが、その構成と内容についてであります。その構成は市長を中心とした市独自のものか。また、その内容は

高齢者及びパートタイマーに限られるものか。

二番目といたしまして、館山職安の委託を受け、その出先機関としてのものなら、その運営は県の嘱託員がこれを行うのか。

三番目、市町村の善意銀行とか、千葉県奉仕銀行の行うあっせん業務と重複しないか。

老人の生産意欲を喚起し、経済活動への復帰の参加を呼びかけるものか。

五番目、老人向け、家庭婦人向け授産場設置の構想なきや。

次に、第二項の教育の環境づくりを中心とした文化都市館山の建設の問題であります。

市長は、義務教育の小、中学校の校舎改築に、はたまた施設、設備の充実に積極的姿勢で取り組んでおられることは、本市の一般会計予算総額六十一億三千七百八十五万円のうち教育費予算十五億九千二百三十七万四千円が計上されていることを見ても明瞭なところでありますが、館山市の将来あるべき姿として、県南に唯一の学園都市の建設こそ急務ではなからうかと支持するものであります。

現今、ともすると学校が大都市中心となり、本県におきましても県北に集中するきらいなきにしもあらず、これは県南教育の無視にもつながると思われるのであります。

本市には、義務教育の小、中学校は別といたしまして、高等学校は安房高をはじめとして五校、ほかに特殊学校として県立聾学校館山分校、新設の特別養護学校、千葉県安房農業短期大学等々また、加えて千葉県高等技術専門学校、国立館山海員学校、老人大学校の学校群のほかに、千葉県水産試験場本場、国立水産大学

館山実験場等、まことに文化都市、学園都市にふさわしい学校や研究機関が存在したのであります。

そのうち、明治三十四年那古町に設置されました県水産試験場は昭和四十九年まで実に七十四年の長きにわたって歴史と伝統とを誇り、四十九年にこの本場が千倉へ移転し、すでにその姿なくいままた那古の農村中堅青年養成所は、昭和二十七年四月に発足し、五十年四月に発展的解消をし、農業経営短期大学の設置をみたのであります。同大学も東金地区に移転本決まりとなり、五十五年には館山より姿を消そうとしているのであります。長年にわたる歴史と伝統の光が、あるいは文化の光が消えようとする現状をみるときとわの悔いが残るものと信じます。

ことに、県南房総の地は、地域性から見て進学するには県北とか東京、あるいは近接の他府県の大学機関なりへ希望進学する以外に道はなく、父兄の負担から考えましても進学の隘路になっている現状から市長にお伺いしますが、那古の農業経営短期大学が五十五年には東金地区へ移転するのやむなきに至ったその経緯と跡地利用についてであります。県と市の事前協議が行われ、交渉はもたれたのかどうか、あるいは移転後の跡地利用に対して対県交渉はどうなっているのかお伺いしたいと存するものであります。

なお、短大誘致の発想なきやであります。南総の地の短大誘致は長い間当地方の宿願であったと思うのであります。この跡地に千葉大の農水産学部の新設とか国立館山海員学校の高等学校並みの資格の取れる学校に昇格を図るとか千葉県高等技術専門学校を国立木更津高専並みの専門学校に昇格せしめるとか、それら

の実現の可能は一にかかって市長の熱意に拘わるものと信じて疑わないのでございます。そこで市長の御熱意、御意中を拝聴したいと存ずるものであります。

三番目といたしまして、水産大学西岬実験場建設計画のその後の推移についてありますが、これは数年前市と当局との間におきまして移転先の土地の買収等もすでに決定してあるのでありまして、その後数年間一体どうなっているのか。そのままに放置されている現状をみると、何か市として打つべき手があったのではなからうかと存ずるものでございます。

その次に、老人大学の内容と将来の計画についてであります。老人大学の実態とその内容並びに校舎、その他の施設、設備は一体どこにづくりうとしていいのか。また、老人大学の実際の内容につきまして具体的にその構想について御存じの点を承りたいと存ずるものでございます。

なお、市職員の受講中の産業能率短期大学の本質についてお伺いいたしますが、同大学は権威のある国家——すなわち文部省の認定による教育機関なのかどうか。資格獲得に役立つものかどうか。国家公務員に、あるいは地方公務員のうち、国家公務員並びに県職におきましては初級、中級、上級の級別があるように聞いておりますが、市町村職員にはそれがなく、年功序列型勤務評定を加味したものかどうか。

以上をもって私の質問は終了しますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきたいと存じます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 五十嵐議員の御質問にお答えをいたします。

大きな質問の第一点は、職業相談室についてでございますが、これは失業者、特に中高年齢者等の職業相談、指導等を行い、雇用の促進を図るべく公共職業安定所の窓口の延長として市に職業相談室を設置されるよう県に要請をいたしております。これが実現いたしますと、館山公共職業安定所長の管理下となる県職員が二名配置されることになるわけでございます。

御質問の中にございました市町村の善意銀行、あるいは千葉県奉仕銀行との関連はございません。

老人の生産活動、経済活動への参加を呼びかけるという意図でもないわけでございます。

御質問の中にございました老人向け、一般家庭婦人向け授産場設置の構想はないかという御質問でございますが、現在のところこの問題については考えておりませんけれども、地域の中でそうした需要が盛り上がってまいりますれば検討をいたしたいと思っております。

大きな御質問の第二点、教育環境づくりについてでございますが、その第一点の那古の農業経営短期大学の問題でございますが、この学校は御案内のように次代の積極的推進力となる創造力と行動力を持つたくましい農業の担い手を育成する目的で、二十七年千葉県農村中堅青年養成所として設立され、五十二年千葉県農業経営短期大学校と改称されたものであります。県としては立地条件、その他総合的判断から五十四年四月東金市に千葉県農業大学校として新設するという事で、本校は五十五年三月に閉校することとなっているのでございます。まことに残念でございますけれども、やむを得ないと考えておりますが、閉校後の跡地利用

につきましては、去る十二月県議会におきまして、通告質問による農林部長答弁で、地域農業振興に役立つ施設にいたしたい、そういう答弁がございました。県といたしましては農業振興の立場からこの跡地を利用したいということでございますので、この趣旨を生かしながら、県と十分協議してまいりたいと考えております。

その次に、小さな第二点は、短大誘致の考えはないかということでございますが、基本的に御指摘のように学園都市をつくるというような構想は大変結構なことでございますし、私も大賛成でございますけれども、現状では、大学誘致というのは大事なことでございますけれども、なかなか実現困難なことだろうと思います。

従来、大学の誘致の動きが何回あったわけでございますが、各関係機関、団体等で積極的にその実現のための努力を払われたというふうに伺っておりますけれども、その後具体的な結論に到達しないというふうに聞いているわけでございます。

市といたしましては、これらの実情を踏まえ、慎重にこの問題に対処をしていきたいと考えております。

第三点、水産大学の西岬実験場の件でございますが、この計画につきましては、昭和四十六年七月に東京水産大学より依頼がございました、用地あっせんを行ったわけでございますが、その後大学側のいろいろな事情により延び延びになっております。

市といたしましても、この早期実現を大学に対し働きかけ、折衝を続けてまいったところでございますが、ことしに入りまして大学側より具体的な事業計画案が示され、地元関係者との間に協

定書がまとまり、本年度一部土地造成し、五十四年、五十五年度の二カ年で建設するとの計画説明があったわけでございます。

老人大学の件でございますが、御案内のように老人大学校は千葉県が県社会福祉協会に委託し開校しているものでございます。館山市民センターに開設されております老人大学校は南房学園と申して本年度から開かれ、毎週火曜日を登校日としております。百名定員でございますが、そのうち四十三人が現在館山市の市民でございます。君津及び安房支庁管内の方々が通学をいたしておるわけでございます。

高齢者の能力再開発、生きがい対策として、南房学園は総合福祉科と生活科学との二学科に分かれ、高齢者の勉学の場となっているわけでございます。

南房学園の今後については、入学者、入学希望者の推移を見ながら地元として、適切に協力をいたしていきたいと考えております。

第五点、職員の受講中の産業能率短期大学についての御質問でございますが、本市では職員研修を重点目標に置きまして数多くの職員に研修の機会を与えております。組織の業績を上げるためには目標意識とチームワークが大切でございますが、この中の役割は管理者でありまして、また積極的な行動をするためにリーダーシップが必要であるわけでございます。しかしながら、管理監督は専門的教育制度がなかったため、管理監督者の最も弱点となっていたわけでございます。また、簿記会計につきましても、職員に経営的意識を持たせることと、複式簿記を学ばせ将来に備えようとするものであります。

これらを職員が勤務時間外に自己啓発をするため、最も効果的

な方法として、官公庁や企業職員を対象に通信教育制度を実施している産業能率短期大学を選び、第一回目は昭和五十二年十二月から、管理者の基礎コースは二等級以上の希望職員、簿記会計コースは希望職員を、また第二回目は本年八月から、管理者コースは三等級以上の職員、簿記会計コースは希望職員をそれぞれ研修させています。

なお、研修費は一人一万五千円で、修了証書が交付されたのちに教材補助金として半額を支給しているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

〇二二番（五十嵐 昇君） ただいまの市長の御答弁で大体は了解いたすものでございますけれども、なお御質問申し上げたいのは県の、第一の職業のあっせんと申しましょうか、いわゆる職業相談室の開設の件でございまして、市には主体性はないんだと、むしろそれは職安の延長として行われるものである、なお二名の嘱託員が県職として館山市に派遣される、こういう御答弁であります、それはそれとしていいのでございますが、もしもその県の延長とするならば、わざわざ館山市の庁内にいすを設ける必要はないんじゃないか。すぐそこに職安があり、その職安においていろいろ職業の指導であるとか、相談であるとか、あるいは職業の開発、就職あっせんといった業務が市の庁内に延長する必要があるのかどうか。これを第一点としてお伺いしたいと思うのであります。

なお、いわゆる授産所の件につきまして、市長は必要は認めるけれども今の点においてはその需要がどうか、こういうことの御答弁でございませうけれども、いまの時点こそやはり必要欠くべからざる時期にきておるのではなからうか、こう存するのでござい

ます。老人向けの職業あっせんにいたしましても、あるいは家庭婦人向けの仕事にいたしましても、こういう不況時代に非常に支出が重なり、また老人福祉につきましても行き届かないという点もあるうし、また老人には老人なりにできる仕事があるんじゃないかろうか、こういう点を教育する、教える、また教えた結果にやるところの実践作業によりましてそこに生産が上がっていくんじゃないか、その生産に対する対価が与えられるとするならば、老人にも何か生きがいのある仕事を市として与えられるんではなからうか、こう考えるものでございます。

たとえば、館山の老人ホームにいたしましても、あるいはかにた村部落に収容されている婦人の方々に對しましても、何かそこに適当な仕事を教えて、そうしてその仕事に対する生産の対価、それに対する報償の喜び、私は現時点にこそ必要な面が非常に多からうと存するのでありまして、需要がないから、必要は認めるけれども現在のところそういうことは実施不可能だというお考えではありますけれども、私はそれと反対に、現時点にこそ必要な授産所の設置ではなからうかと存するのでございますが、市長の御意中のことをお伺いしたいのでございます。

なお、学校教育の問題、学園都市の建設の問題でございませうけれども、先ほど申し上げましたようにわが館山市には高等学校をはじめそれぞれの優秀な学校施設が、学校群が存在するのでございますが、その中にはとすると、ぐずぐずしていると廃校に追い込まれやしないか。

たとえて申しますと、那古にありますいまの職業高等技術専門

学校の前身の職業補導所といったような施設はだんだんだんだん希望者が減ってしまう、それでぐずぐずしている、経営が、対象になる生徒がいらないということを理由に、ともするとまた県北へ持っていかれちゃうんじゃないか。

そのよってきたる原因は何かと申しますならば、あそこで何でもそれに対するところの資格が与えられないんだ、実力の点につきましては専門技術を取得することによりましていろいろ開ける道はあろうかと存じますけれども、資格が得られない。たとえば高等学校に落第した諸君があそこに学ぶんだというふうな、何か生徒自身に対するひがみもありまして、そうしてどうもあそこに行くことを好まない。また学校におきまして、資格が、高等学校並みの資格が与えられないということで、年々希望者が減ってくる現状だ。

こういう現状を踏まえて考えますときに、あそこを資格を授与される県立の職業高等学校——木更津には木更津高専という国立の立派な実業高等学校が誕生しておるのでございまして、当地方からも木更津、木更津といつて進学する希望者が非常に多いというのを聞いておるのでございますが、地元にもそういう実業学校に類するものがあるけれども、その実業学校そのものは資格の獲得に何ら役立たないということになりますと、やはりそこに市として何か県に陳情して、そういう高等学校並みの卒業の資格を取れる学校にまで育て上げるといふ、そういう点について市長の御見解を聞かんとするものでございます。

なお、海員学校等におきまして、二年の修業期間のうちに下級の船員の養成としての教育は施されるようでございます。また

それが中心教育目標であるかのように思われますけれども、館山市にとっては、ちょっと青年には物足りないの、でございます。やはり高等学校並みの、今日の高等商船学校並みの格までこれをもっていないかと、あの国立の海員学校もいつの日にかそのともしびを消してしまいうんじゃなかるうか、こういう点も心配されるのでございます。

そういう点から、これらの学校に対しましても、市は何かここで打つべき手を打って、積極的に出ていっていただきたい、こう存ずるものでございます。

老人大学の問題でございますが、南総学園として県南の地に館山市が選ばれた。これは大抵なよりもあつたほうでございまして、存在を無視するわけではございませんけれども、この内容等につきましては、設備の拡充等につきましては、やはりそれを受け入れた館山市の母体がこれに強力なる援助をしなければ、ことに老人の学校でございます。これは営利を目的としたものでもなんでもないものでありまして、やはり老人が老人なりの豊かな住みよい館山、そこに意義ある人生を終りたいという老人の切なる願いによって学校に就学しておる、こう存ずるのであります。これらの点につきましても館山市がもっとこれを応援して立派な老人大学校に育て上げていく、またそういうことによりまして、たとえば君津の方からも、あるいは夷隅の方からも老人大学に通学する、また通学をしても通学しがいのある内容等で私はあつてほしいと思うのでございます。

そういう点につきまして、館山市はいつまでも市民センターの仮校舎でなくして、根をおろした老人大学校の跡地のあっせん等

につきましても十二分に配慮をしていただかないと、この老人大学の教育の効果が上がらない、なお衰微していくのではないかと、こういう点も心配されるのでございます。

その次に、水産試験場の移転の問題でございますけれども、これらも水産試験場が館山本場に七十有余年の教育の根をおろした、それが急に千倉に持っていかれた、そのよってきたる何ものかが私にはありませんか。これらはやはり市の当時の為政者の熱意の不足によるものではなからうか。水産教育研究機関、あるいはそれを実施に移すところの水産高等学校というような両々相まって水産業の振興を図るところの一方が千倉にもつていかれた、片足になっちゃった、片肺になっちゃった、こういうことで、私は水産業の発展という前途を思うときに何か一抹の寂しさを感じるものでございます。

そういう悔いを残さないという面につきましても、市長の十分なる御配慮のもと、館山を立派な学園都市にもつてまいりたいと、こう念願するものでございます。

それから、いわゆる農業短期大学がなんであそこへもつていかれたんだと、なんでトンビに油揚げをさらわれたんだ、こういう点を考えますときに、やはり東金の当時の市長さんが強力に県に働きかけた、こういう点も聞いておるわけでございまして、やはり長をなす当事者の熱意というものの、政治的手腕というものがある程度まで他市のそういうところまで侵害されるということになりますと、これは安閑としておられない現状ではなからうか、こんなふうにも考えるのでございます。

その点市長さんの熱意のほどを御披露お願いしたいと存ずるも

のでございます。

それから、最後に市の職員の研修機関であるところの産業能率短期大学の主旨でございますが、何かお聞きいたしますと權威のある学校ではないかのようにうかがえるのでございます。これは国の、すなわち文部省によって認められた短期大学であるのかどうか。名前だけの短期大学であり、利益を上げるだけの機関であるとするならば、これは市税のむだ遣いにもつながるのではないだろうか。実力養成を第一として管理者の管理監督の知識、技能の向上ということで、こういう短期大学に受講せしめるということ、これはいたって結構でございます。結構でございますけれども、結構であればあるほど実績を踏まえた上で受講せしめる權威のある短期大学の受講、こういうところまでお考えいただきたいのでございます。

県職、国家公務員は初級、中級、上級という序列があるように聞いておりますが、地方の市町村の職員の方々はやはり年功とまたそれに付け加えてのいわゆる能力的な勤務評定とでも申しましようか、そういったものを踏まえて加味していろいろ市長さん考えておられるようでございますが、必ずにいたしても、これらの研修機関を、名実ともに備わった、研修機関に立派な館山市の優秀な職員の方々を参加せしめる、受講せしめるということにしたい、こう考えるものでございます。

○経済部長(太田博雄君) 職業相談室の件でございますが、これは県まかせてあって市の自主性がないではないかという御質問でございますが、いままで市民の方が職業のことにつきまして相談室にも参りましたこともございます。その際は絶えず人事課と

連絡をとりながら、使用できるようなところではなるだけそのようにしておいたわけでございます。それに本年からは登録制度というものを設けまして、職業につきたい方につきましては人事課のほうに登録しておきまして、あいた部分についてその方たちと連絡いたしまして、職業をあっせんしてあることは事実やっておったわけでございます。

たまたま、県におきまして五カ年計画の中で全市に職業相談室を設けるというようなものとたまたま合致いたしました関係で、私のほうはそれに対しまして要請をいたしておいたわけでございます。

それと、もう一つは市に置く必要はないのではないかという点でございますが、御承知のとおり市と安定所はすぐ近くでございます。しかしながら市民といたしましてはやはり自分たちの市であるという市役所のほうがなにかと気軽に相談がもってこられるという利点があるかと存するのでございます。そういう意味で県の計画に基づきまして市にも設置していただきたいという要望を出しておるわけでございます。

参考のために申し上げますが、県で計画しております安定所の窓口は十万未満の市につきましては県で設置したいという意向でございます。十万以上の都市につきましては国で一応窓口を設置するという計画であります。国で現在設置している市は県下では千葉、市原、市川、木更津、松戸、柏、船橋、習志野、八千代、成田の十市でございます。それともう一つは、県で設置しておりますのは君津、我孫子、東金、鴨川、富津、流山の六市でございます。以上が県下におきます窓口相談設置の現状でございます。

○市長（半澤良一君） 授産場の設置の件でございますが、確かに考え方によりましては、こうした不況のときだから必要だということば理論としては成り立ちましょうけれども、現実にそれを要望している方がいるのかどうか、そういったことが問題になるうかと思っておりますので、これを今後検討いたします。

それから、船形職業訓練校、館山船員学校の件についての御質問でございますが、これはいずれも中学校卒業程度の――卒業者を収容する学校でございますが、船員学校にいたしましたとしても高級船員ではなくて下級船員と申しましょうか、中級船員を養成するものでございます。訓練校も中学卒業程度で技術を身につけるという学校であるわけでございます。これはそれぞれそれなりに意義のあることだと思えます。ただ高等学校への進学率が大変高まりました。九〇％以上になっているようでございますので、なかなか生徒募集には苦慮いたしておるわけでございますが、やはり学校そのものは本来の趣旨に従っていくべきものだと思っております。

老人大学につきましては、県で特に校舎をつくるというようなことは考えていないようでございまして、市といたしましては場所を提供する等いろいろな便宜を図っているわけでございます。これは今後も便宜を図っていきたいと思っております。

水産試験場が移転した経過はよく私わかりませんが、あの場所が狭くなったり、また海の汚れ等があつて研究機関として研究を続ける上で不適当な土地になったためだというふうに聞いております。これはまたやむを得ないことだと思えます。

農業短大につきましても、これも県の方針として農業大学校と

いうものを県下一本にまとめ一本化しようという構想のもとにあつたわけでございます。これは確かに努力が足りなかったといえ、そういう議論も成り立つかもしれないけれども、県の方針でもあるわけでございますので、やむを得ないことだと思ひます。

以上、答弁を終わります。

○総務部長（鈴木弘道君） 職員研修の関係でございますけれども、産業能率短期大学は昭和二十五年の三月に文部省から認可を受けた学校でございます、いわゆる実務に密着した教育活動を行っている大学でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十一時 一分 休憩

午前十一時三十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○二番（五十嵐 昇君） 私の質問に対しまして、市当局の熱意ある御回答をいただきまして、時間もまいっておりますので、以上をもちまして質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で二番議員君の質問を終わります。

次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案された議案の審議に先立ち、当面する館山市政の中で肝要と思われる次の五点について半澤市長の所見を伺いたく、ここに質問しようとするものであります。

質問に入る前に、先に半澤市長は無投票で市長に再選されまし

た。再選後初の議会にあたりまして、まずお祝いの言葉を申し述べる次第であります。同時にまた、私は今後四年間よく健康に留意されまして、市民のため、館山市政進展のためにお尽くしなされますよう、そしてその基本姿勢が民主的でありますよう心から期待しつつ、以下質問に入ります。

質問の第一点は、今後四年間にわたる半澤市政の重点施策についてであります。過去四年間の市政について私は前市長本間謙氏の市政を踏襲されていると言いますが少しも踏襲していないのではないかと、いささか批判めいた発言を続けてまいりました。しかしそれはすでに過去のものとなりました。半澤市政は一期四年間とにかく財政難に見舞われながらよく風雪に耐え、市長がみずから声を大にして九月定例会で発言されました、不転の決意をもって市政の執行にあたられ、その結果として館山市財政を健全化したということ、また人間尊重とか、香り高い文化福祉都市の実現とか言われることなどにつきましてはそれなりに理解できま

すし、評価もできます。しからば、今後四年間の市政の重点施策を具体的にどのように推進されるかを伺いたいのであります。

私をして言わしむるならば、もう本間前市政の踏襲から脱却されて、文字どおり半澤色を十二分に市政に打ち出し、これこそわが市政と標榜される何かが期待されなければならないと思うのであります。

思うに、館山市政において農業はどうか、農民は一体今後どういう発展を遂げるのか、あるいはまた衰退していくのであるうか、漁業はどうか、観光発展はあり得るのかどうか。抽象的に香り高い文化福祉都市の実現と市長は言われますが、そういうこ

とでなくて、具体的な施策として、二期目に入られたいと思いますその御所見を伺いたいのであります。

質問の第二点は、市職員給与条例の一部を改正しようとする案についてであります。

半澤市長は、質問の第一点でも触れましたとおり、去る九月定例会で声高らかに昭和五十二年度の一般会計決算で二億一千四百八十六万五千円の実質収支の黒字を生み出したことを述べられ、また単年度収支で一億五千四百九十六万八千円の黒字決算を生じたと発言しておられます。その内容を批判しようとするけれどもいろいろとごさいます、省くといえましょう。単純に割り切って言えば市政は赤字よりも黒字のほうがいいということが言えますしう。

それならそれで財政上の対応の仕方があろうというものです。市の財政は黒字に転化した、こう声を大にして叫んだそのあとで市長選がある、幸いにしで市長選挙は無競争に終り無事に再任された、途端に市の職員の期末手当を給与月額の一〇・一カ月分をカットしようとする、しかも県下でその例を見ない給与改定、すなわちベースアップの三カ月延伸しようとはまことにおそれいってしまうのであります。

私は本当にこういう挙に出られようとは夢想だにできなかった。国や県の意向に従うこともあながち悪いこととばかりは言えません。そのことによって館山市政が進展するとなれば韓信の股くぐりではないが、市長たる者国や県に対しお世辞を使うのもよろしいかもしませんが、一方において黒字に転化と声高らかに言いながら、他方において職員の給与をカットしようという発想自体

に私は本当に疑義を生ずるのであります。

五十二年度決算において、黒字を生ずる過程にありまして、職員組合の手により庁舎内にピラが張り出されたことがあったではありませんか、かつて館山市政の中でこんな事例を招来したことはなかったであります。トンデレラだの、シンデレラだのといった市長に対する風刺のピラが庁舎内に張り出され、まことに異常であつたという以外に言いようのない事態でありました。もっとも職員を甘やかし、職員組合の要求をのんでいればピラを張られるようなことはなかったであろうという言い方もあります。が、そう言ってしまうえば身もふたもなくなってしまう。

何はともあれ、職員と対決の姿勢を強められ、そして職員の犠牲を伴いつつ黒字に転化することができたことは一面の事実であります。だからあのときの市長は、あれでよかったという評価もありましょう。しかし、黒字になった今日、県の人事委員会が県職員の給与に対して勧告したからといって、直ちに館山市がこれに盲従しなければならぬ理由はないのではないかという批判の声が上がるのも無理からぬことだと思っておりますが、市長の御見解をとくとお伺いしたいと存じます。

質問の第三点は、公共下水道事業の実施について市長の見解をお伺いします。

この質問は、去る九月定例会で同僚安西益男議員が行っておりますので、いささか重複するの感を免れませんが、お許しをいただきます。あえて質問するゆえんのは、館山市政の中でこれほど喫緊な問題はないと考えるからにはほかなりません。

市長はこう答弁されました。現在国で第四次下水道整備五カ年

計画は五十一年から五十五年までの間に進められているが、市もこの中に入れてもらうように要望しているとのことでありました。しかしながら、いま館山市で求められておりますのは、国の第四次五カ年計画の中に入れてもらうよう要望しているということではなく、この四次計画の中に入れなかった事実が問われなければならぬということなのであります。千葉県内でも国の第四次五カ年計画の中に入って目下着々と下水道工事を進めているところもあります。

そこで伺います。はたして国の第四次五カ年計画の中に入るのとが可能であるかどうか、この点の見通しをお聞かせ願いたい。五十一年から五十五年までの実施年であるにもかかわらず、もう二週間を経ずして昭和五十四年に入ってしまう。はたして可能かどうか。

次いで、九月二十五日の質問以降建設省ないしは県の土木部にこの計画の中に入るべくどんな要望をされたのか、その事実行為をお示し願いたい。さらに、具体的に今後どのように考えておられるのか、その御見解を求めます。

質問の第四点は、し尿処理場建設の見通しについてですが、この見通しの中にはまず土地、次いでし尿処理場施設のそのもの——つまり機種、さらには建設の時期の三つが含まれております。

まず、土地につきまして、どこに予定をされるか、そしてその面積は、またその所有者はどなたか、さらには価格について御説明をいただきたい。

続いて、機種について伺います。

私も議会側は先に各常任委員会別に視察してまいりましたが

その視察結果について執行部側はどのような評価をされておられるかお聞かせ願いたいと存じます。

私は、機種の選択については、執行部の専管事項であろうかと考えておりますので、私見をはさむ余地は毛頭ありませんが、まず選択の前提として化学的な裏づけ、この化学はいわゆるサイエンスの科学であってもよろしいでしょうが、とりわけ化学のほうの化学の学問的な裏づけが大切ではないかと考えているものであります。このことは、化学というのは、市長も十二分に御存じでありましょうが、実験、実験と実験を重ねた結果が学問としての評価を受けることになるのでありまして、実験と学理とが一致しなければ学問として評価されないものであります。

私は、こういう見地に立って視察にも同行したわけであります。が、し尿の処理にあたっての学問的な解明と実験を重ねた結果に対して太鼓判が押されることが必要であろうかと思われるのであります。この点に関しての御見解を伺います。

また、太鼓判を誰が押すかという問題があります。環境技研コンサルタントという民間機関もございますし、社団法人日本環境整備教育センターという機関もあります。もちろん当局は一機関のみに偏向せず、幾つかの機関の所見を参考に徴した上で慎重に太鼓判を押されるおつもりと思いますが、この点に対するお考えをお聞かせ願いたいのであります。

また、かつて私の質問に対して市長は、その時期を年度内とお答えになられました。が、来年三月末日ごろまでに土地と合わせて機種をお決めになれる御所存かどうかについても合わせてお伺いいたします。

五番目の質問は、最後でございますが、観光道路沿いの手洗い所は市の執行部内の管理はどことが所管しているのかについてであります。

質問の焦点がいささかぼけてくる感がないわけではありませんが、これは千葉方面から木更津を経て富浦町、館山市船形に抜けている国道一二七号線、そして那古船形駅前から海岸に向かっての道路に信号がありますが、ここから海岸におりると館山の海上自衛隊まで広い快適な海岸道路になります。これは市の都市計画街路であります。そして上に上がって西岬を通過し、フラワールインを抜けてやがて白浜に至ります。これが館山市にある観光道路の一つの骨幹と言えましょう。

北条棧橋から左折し、国道一二八号線で上の原、九重を経て鴨川方面に向かう道路も産業道路でもあり観光道路といえるのではないのでしょうか。また、館山から白浜に抜ける道路には青柳を通過するものと、館山病院の前を通過して安房神社に至り、フラワールインの終点と合流するものとの二本がありますが、これまた産業道路でもあり、また観光道路と呼べるのではないのでしょうか。

時あたかも本日は昭和五十三年十二月十八日、暮れから来年の年初めにかけましてバス、あるいはオートナードライバーによる観光客は相当数殺到してくることが予想されます。そこで、いま申し上げた各路線沿いに公衆便所が一体幾つ準備されているか、また管理の所管がどこか、その部課を伺うものであります。同時に、今後手洗い所を増設するお考えはないかについても合わせて伺います。

と申しますのは、私もオートナードライバーの一人であり、時折

長距離運転をするのであります。びろろにわたる話で恐縮ですが、困るのは手洗い所です。館山市が観光を市政の中でうたっている以上、外来客に万全の態勢を準備してサービスをし、帰ってから思い出の地として、館山を再び訪れようという気持ちを抱いてもらうためにも、小さい問題のようですが結構差し迫った問題なのであります。簡単に結構ですが、御説明を承りたいと存じます。以上御質問申し上げ、御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井輝久議員の御質問にお答えをいたします。

第一点目、私の重点施策を問うという御質問でございますが、昭和四十九年市長に就任いたしました以来、健全財政の確立を図りつつ、市民生活の安定、向上を目指して、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育の環境づくり、産業の基盤づくりの四点を重点施策としてその実現に向かって最善の努力を怠りませんでした。でございますが、二期目もその基本的な考え方には変わりはありません。

第一期目の諸施策を引き続き推進する所存でございますけれども、特に本市におきましては都市施設の整備が立ち遅れ、道路なども昔とあまり変わらないような状態にございますので、この任期中に街路、市街地の整備、公共下水道などについて具体的な計画を立てまして、その実現に努力をいたしたいと考えております。質問の第二点、給与条例の一部改正についてでございますが、地方公務員の給与等につきましては、社会情勢に適合するよう措置しなければならぬことでございますから、国の人事院勧告並

びに県の人事委員会勧告がありますと、その都度県に準じまして改定をしております。

現行給与制度からしますと、本市の場合、上部団体である千葉県人事委員会が行います勧告を尊重いたしまして職員給与の改定をしますことが最も適切、公正なものと考えているわけでございます。

第三点、公共下水道事業の問題でございますが、現在国の第四次下水道整備五カ年計画が実施されておりますが、この五カ年計画の中に要望しておきませんと事業が実施できませんので、本市も第四次計画の中に要望してございますし、またその計画の中に入れてもらっているわけでございます。

今後、公共下水道の基本計画調査を行い、これに基づいて都市計画決定、事業認可等をし、さらに各年度ごとに具体的に事業計画を県を通じて国に要望することにより、公共下水道事業を実施することができるようでございます。

当面する諸事業との関連もあり、具体的な計画を進めるに至っておりませんけれども、第四次五カ年計画に続いてさらに第五次の計画、すなわち五十六年から六十年度にわたる計画でございますが、その中にも再要望してまいりたいと考えているわけでございます。

本年の十月に建設省より新経済計画に基づく昭和六十年までの下水道事業についての照会がありました。が、県都市部下水道一課に赴きまして打ち合わせをいたしておりますけれども、館山市もこの中で長期の計画で実施できるよう要望しております。

申し上げるまでもなく、汚水の処理を図り快適な生活を営めるようにする生活環境の改善の上からも、また公共水域の汚濁防止、

浸水等による被害の防止、自然環境を守るためにも公共下水道の整備は欠かすことができません。したがって今後計画的な事業推進を図るように考えていきたいと思っておりますけれども、当面の諸事業との関連もあり、また多額の経費を必要といたしますので、市民の方々の御協力をお願いし、慎重に進めていきたいと考えております。

し尿処理場の建設の見通しについて問うという御質問でございますが、用地につきましては、先日全員協議会で御報告させていただきましたように、いろいろな角度から検討いたしました結果、豊房の出野尾地域にあります砂採取跡地が適地であると判定いたしました。出野尾、西長田等関係区長さんに対して協力方をお願いをいたしてございます。現段階ではまだ正式な御了解はいたしておりませんけれども、ぜひとも御協力いただくべく誠意をもって積極的に対処してまいる所存であります。

なお、その場所は出野尾の大砂を中心とした地域でございます。面積は十一万五千平米、地主は榎本広志さんと山口栄一さんでございます。

機種選定につきましては、各常任委員会の視察結果をどのように評価しているかということでございますが、機種の選定は非常に重要なことでございますので、お忙しい中をぜひにお願いいたしました次第でございますので、廃棄物処理施設整備計画審議部会の審議の過程におきまして各常任委員会の報告書をお借りし、細部にわたる御調査の内容は貴重な御意見として十分に検討させていただきます。

機種決定にあたって、学問的な解明と実験を重ねた結果の太

鼓判が必要と思われるがという御質問でございますが、私もまことに同感でございます。また、誰がその太鼓判を押すかというところでございますが、日本環境衛生センターをはじめいろいろな機関がございますが、それらの意見はあくまでも客観的な評価であり、最終的な太鼓判というものは国が押すものだと思っております。

その方式が、し尿処理施設として適切であるかどうかは、厚生省で専門的な審査を受けなければならないことになっております。したがって、この審査にパスして初めて太鼓判が押されたということになるわけでございます。

また、時期につきましては、土地につきましては先ほどお答えいたしましたように、すでに関係者に対する行動は開始いたしておりますので、ある程度の見通しのついた時点で正式に関係機関にお諮りいたしたいと考えております。機種につきましては時間をかけ慎重に検討いたしました結果、当市にとってはアタカ工業株式会社のIZジェットエアレーション方式が適していると判定いたしましたので、早速県を通じ厚生省と協議の手続きをとる考えております。

観光道路の手洗い所の管理についてでございますが、第一点の御指摘の各路線には計七カ所ございます。管理の所管は経済部商工観光課でございます。今後の設置につきましては海水浴場を主とした増設を考えております。

以上、答弁を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 午前会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十五分 休憩
午後 一時 二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後出席議員二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

○一四番（石井輝久君） 再質問いたします。

質問の第一点でございますが、これは再選された半澤市政の今後四年間二期目の市政の重点施策についてでございますが、これは市長から御説明をいただきまして、これは了承いたします。思いを新たにされて、館山市政進展のために一層の御努力あらんことを要望いたしまして、第一点の質問を打ち切ります。

二点目でございます。職員の給与条例の一部改定でございますが、先ほどの御答弁の骨子は上部団体の勧告に従って改定するのが適切と思うというようにあったように思います。そこであるほど国は毎年人事院が国家公務員に対する勧告を出します。同時にこれからしばらく遅れますと県の人事委員会が県の職員に対して給与に関する勧告をいたします。上部団体というのは国の人事院ないしは県の人事委員会を指すことでございましょうが、ところがこの館山は——私はあえて盲従という言葉を使いますが、この勧告に従うのが適切と思うという御答弁ですが、実際いま県下の各市——県の職員の場合には、たとえば三カ月の延伸、これは県の職員はやりません、そのほかの地方自治体でやろうとしているのは館山市だけです。どこもやっていますよ。自主的に判断してやらないんです。やっているとあります。十二月で条例改正しようとしているところはあります。絶無とは言いません、皆無とは言いませんけれども、ほとんどないですよ。仮に

条例を十二月に提案しても実施は今年度はやらないというのがほとんどです。館山市だけが条例を提案し、そして十二月実施に踏み切ろうとしている。館山市だけです。延伸は県職員以外地方自治体。市の場合にはどこもない。これに對しまして明快なる御答弁をわざわざしたいと思います。

次、公共下水道につきましての三点目の質問でございますが、第四次五カ年計画の中に入っていて、財政上の都合で実施には至っていない、こういうことでございますので、今後の検討の課題しかも緊急、喫緊な事業として市長も考えようでございまして、今後ひとつ具体的に検討を進められるように要望しながらこの点は打ち切ります。

それから、四点目を抜かしまして、これはあとで再質問いたしますが、五点目の観光道路沿いの手洗い所の点でございますが、海水浴場を中心に今後増設したいということでございます。ひとつ適当な個所に御検討いただいて増設されるように要望しておりますが、ただ一点、これは安西議員が前に質問をされました、県の所管であったフラワールインの大神宮側のとりあえずの終点、あれを県から開放してもらって、いま利用できるようになっております。前助役時代からの懸案事項で、ようやく対県折衝の結果使わしてもらうようになったと思いますが、これは御答弁にあつたような経済部商工観光課の所管でよろしいんですか。この点一つだけ質問して、とりあえず再質問いたします。

○総務部長（鈴木弘道君） 給与条例の関係でございますけれども、給与条例そのものは、地方公務員法におきまして、他の地方公共団体その他の民間事業の、企業の、従事者の給与その他を考慮し

て定めなければならないという基本原則がございます。これに基づきまして、県ではいわゆる企業規模百人以上、事業所規模で五十人以上の県内事業所を調査したわけでございます。この結果に基づきまして、県下の全般的な判断で、県の職員については、給与については二・九五%の勧告になったわけでございます。この中の一環として三カ月延伸というように内容を含んだものでございます。

そういったことを考えまして、当市におきまして、従前から、これは給与を決める一つの基準といたしましては、県の人事委員会の勧告を尊重するという方針でやってきた関係もございまして、そういうようなことで今回このように……。

○経済部長（太田博雄君） 公衆便所の件でございますが、旧富崎ゲートにございます公衆便所は同じく経済部商工観光課で所管しております。

○一四番（石井輝久君） 職員給与条例の一部改定案は本議会に提案されております。そこで明日の審議に当然議題に供されるわけでございますので深くは触れません。また、同僚議員も質問されるようでございますので、そちらのほうに譲りたいと思いますが、いまの総務部長の答弁、それはわかりますけれども、とにかく国の人事院、県の人事委員会、いわゆる地方公務員法によっていろいろ勧告されることはわかっております。とにかく少なくも、地方自治体は地方自治体としての自主性をもった市政が運営されているわけです。その中で国の人事院勧告があり、県の人事委員会の勧告を受けながら実施しているところはどこもないんですよ。千葉市にしても、市原市にしても、市川市にしても、財政が豊か

な市であって、なおかつ延伸も——仮に条例を提案しても、今年度内実施はしないんだ、こういうことですよ。それからカットの問題にしても年度内実施するところはほとんどないですよ。それを館山市が先般先ほど申し上げましたように黒字を生みながら実施しようとする。ちょっと納得できない。なぜ館山だけがやらなければならぬのか。これは申し上げるだけにとどめて明日の質疑にゆだねることにいたします。

それから、五番目の質問ですが、フラワーマインの最終点の富崎ゲート——商工観光課の所管だそうですが、あれがようやく開放されて、実はあれが管理が市の管理とすると、えらい重大な、びろうにわたりますけれども、それこそ汚点ですよ。管理全く不十分。この間ある人があれを使いまして、電話をよこした人がいる。惨たんたる状態、とても使える状態ではない。やはり観光上——観光上という大げさなことを言わなくても、ひとつ今後の問題として管理を十分していただきたいと思います。この点に関する質問は打ち切ります。

次に、四番目のし尿処理の質問でございますが、この点の再質問はいたしますが、ただいま御答弁によりまして土地の問題、ちょっと価格の点が落ちておりましたけれども、これはよろしゅうございます。ここで聞かなくてものちほど伺いすることになります。

機種の問題ですが、アタカのIZ方式を採用するという御答弁いただきましたが、視察結果だけじゃなくていろいろな観点から非常な不安に駆られるわけです。館山市の将来のためにこれが採用ははたしてどうなのか、非常に不安に駆られざるを得ないわけ

す。

それはなぜかと言いますと、今度は質問に移りますが、先ほどの市長の答弁で、委員会視察の結果の報告書を十分尊重したというお話でございましたけれども、少なくとも私どもは不安につきましては報告書の中にうたわれていたと存じます。

そこで、まず第一番に質問でございますが、これは国立公衆衛生院というのがございます。それから厚生省にし尿に関する審議会がございます。ここに岩戸武雄博士という方がおられるんですが、この方の御見解ですと、し尿の日本の最大の権威者といわれている方でございますが、アタカ方式の設計の妥当性を証明するものがない、各設備の決定に根拠がないと断定しております。著しく不安を感じるわけです。この点学理として定着してないものの採用に要するに著しい不安を感じるわけでございます。先ほども申し上げました学理と実験が一致してその結果の積み重ねが学問として定着してないという不安を感じるというのはこのことなんです。この点に関する御所見を承りたいと思います。

次ですが、委員会視察の結果が報告書にもございますと思いますが、たとえて申しますとSSはどうか。あの五所川原の場合SSは不検出という契約です、ところが私も視察した結果におきましては現況はO・七PPM、これは報告書に出ております。不検出という契約にもかかわらずO・七PPM出ている。これがまず第一点。これは一体どういう機種なのか御検討になったと思います。お伺いをいたします。

それから、あの報告書にもございますように、大体厚生省はBOD、SS、大腸菌三千以下、この三つは当然のこととして要求

されております。ところが、あの機種におきましては、私も視察した限りにおきましては、大腸菌群の検出は行っていない。この点はどうか。

それから、さらに申し上げますと、トータル窒素PN、これは三〇PPMの契約でございます。ところが実際の現況はどうかといえますと、これは一〇〇PPMを切るというだけ、要求三〇PPMに対して一〇〇PPMを切るというだけ。これははなはだしく除去率は悪い。数値が合致していない。この点に關していかにお考えになっておられるか。

しかも、この機械は全量投入を始めたのが昭和五十三年十月四日、全量投入でフル操業を始めたのが五十三年十月四日です。私も視察したのは五日か六日です。私も視察の前日か前々日です。全く操業を始めたのが、フル操業を始めたのが十月四日です。そういう新しい試みの機種を館山市がえて取り上げなければいけない、採用しなければということに対して、私は実験と学理が合致したものでない機種をえて選ばなければならぬということにはなほだしい不安を感じる、この点に対する御見解を承ります。

次でございますが、五所川原のあの機種はいわゆる厚生省でいう新処理施設としての機種ではない、厚生省でいう新処理施設としての機種ではないと思います。したがってこれを館山市が採用するとすれば、あのアタカ方式のE方式というのは——エアレ——ーションシステムですか——は、館山市が全国の第一号になる、こういうことになると思います。新処理施設として厚生省でいう全く館山市が実験台に立つわけなんです。そういう冒險をえて

しなければならぬ理由はないんじゃないかならうかと私は思います。この点に対する明確な御答弁をわづらわしたいと存じます。

これは全国的に見て——いまの關連でございますが、次の質問として、全国に対して納入実績ゼロ、よろしゅうございますか、五所川原は新処理施設ではないから納入実績にならない、新処理施設としての納入実績は全国でゼロです。ここにデータもございませうけれども、そういうものをえて採用に踏み切る、この点に關して明快な御答弁をわづらわしたいと思います。

○民生部長（石井 謙君） 最初の質問は、機種の關係におきまして学理的にまだ定着しておらないものであるというようなことでございますが、この關係につきましては、私も先般全員協議会で御説明申し上げましたように、四社の機種を選定いたしました。おのの技術者に来ていただきましたして、設計内容等について、要するにフローシート等合わせまして、いろいろ説明を受けまして、その内容等についていろいろ検討をいたしたわけでございます。

この証明的なものについては、ただいま実際の実績がないというようなことでございますが、いままです調査の段階におきましては実際に厚生省の認証を得まして現在稼働中の施設もあるわけでございます。そういうようなことを考えております。

それから、委員会においてSSが不検出であるというような報告に對しまして、トレースでゼロということでございますが、先般御視察いただきました過程におきましては〇・七PPMということでございますが、これはあくまでも五所川原の關係でございます。私どもはそのフローシートの中で、あれと同じようなフ

ローシートではなくて、もっと脱窒もできるような内容の検討も加えて考えておるわけでございます。

それから、大腸菌の關係でござりますが、これは厚生省であくまでも三千個以下ということが示されておるわけでござりますが、先般の御視察いただきました五所川原におきましては全然検査をしていないということを確かに私も聞いておりますが、あの場長の考え方としては、いつ検査してもほとんど検出ができないというところでやっておらないというふうに解釈いたしておりますが、あくまでも私どもの考え方は三千個群以下ということで考えております。

その次に、フル操業をいたしましたのが十月四日で、のちに建設経済委員会で視察いただきましたのは七日であつたかと思いますが、確かに一日か二日では実績というものは当然で得ないわけでございますが、實際的に稼働を始めたのが四月に入ってからということ聞いておりますが、その間においていろいろ量も少ないし、フル運転ができ得るような状態でなかったことは事実らしいんですが、御指摘のように全量運転というのは十月四日と聞いております。

次に、五所川原の、新処理施設としての機種ではないということとでござりますが、確かにそのとおりでござります。IZ方式を四十九年でしたか、に新設いたしましたものとドッキングをした施設でござりますので、これは単独の新処理技術ということではございませんが、ただ私どもの考えておりますのは、あれを除いた場合についてのIZジェットエアレーション方式というのは新処理技術というふうに考えております。と申しますのは、その方

式で現時点において秋田県の井川町で申請をいたしまして、現在厚生省の認証をいただきまして稼働しているような状況でありますことから、そんなふうに考えておるわけでございます。

Q 一四番（石井輝久君） それぞれ御答弁いただきましたが、先に進みます。

ただいま一番重要な答弁を落としています。トータル窒素三〇PPMの契約が一〇〇を切る、これに対する御答弁をいただかなかつたけれども、これが一番重要なんです。これは指摘して、あとで答弁して下さい。

要するに、全国的にIZ方式が大体脱窒素技術が確立されていない、こういうことで滋賀県で五十三年度クリタ工業に決定しております。それから同じく滋賀で近江八幡、脱窒素に信頼性が薄い。以下みんな脱窒素、脱窒素。脱窒素技術がだめだという定評があるわけです。これに踏み切ったというのは、何がゆえに踏み切らざるを得ないのか疑問に感じます。

それから、保証値。要するにいま言いました契約時点、先ほどSSは不検出、ところが〇・七あった、館山は不検出ではないからおさまる、こういうことではないんです。契約と現況が合致していないということを言っているわけです。そういう保証値に信頼性が置けない機種なんです。何ゆえにこれに踏み切ったか。

それから、メンテナンス——維持、管理。かって冷却水の問題言いましたが、ここにも問題がある。いま見て御覧なさい、稼働を始めたら冷却水必要といたしますよ、それに伴うトラブルが起これると思います。この点に対して御見解を伺います。

それから、私はここにリコピーを持ってきております。これは

昭和五十二年の十月二十五日付の九州の西日本新聞のリコビー、それから同じく同日の説売新聞のリコビー、同じく同日の日本経済新聞のリコビー、これで長崎県の壱岐郡の郷ノ浦町というところで汚職を起している。これがどこであろうかと思つたら安宅建設工業、そして町長も逮捕されています、関係者も逮捕されています。こういう事実を御存じかどうか、そしてこれにあえて踏み切ったかどうか。これにも私は非常な不安を感じます。

それから、さらに申し上げますと、厚生省の補助対象、先ほどから言いますが、厚生省の補助対象というのはこれを採用した場合に、ほかの機種を採用したよりも館山市は一般財源の持ち出しになりますよ。パーセントが違いますよ。アタカのプロローシートでいくと、遠心分離機、分離液貯槽、ここまではか厚生省は認めてない。それ以後消化槽、脱窒素、以下沈殿槽、これはおそらく厚生省の補助対象にならない。そうなる一般財源で負担しなければならぬ。そういう財政上の不安もこの機種についてはある。この点について明快なる御答弁をいただきたいと思っています。

○民生部長（石井 謙君） まず脱窒の關係でございますが、館山市の場合におきまして五所川原の關係を申し上げますと、五所川原におきましては脱窒等の關係がございません。合わせまして脱窒用特殊ろ過槽もフロージットの中には入っておらないわけでございます。館山の場合は特にそういうような關係を考慮いたしましてあの中に入るといふような考え方で、脱窒が行われるというよりなことでございます。

その次に、安宅建設の汚職の關係につきましてでございますが、その点については承知いたしておりますが、たしか贈賄というこ

とで一カ月間の指名回避があったということを聞いております。議長（吉田勇治郎君） 以上で一四番議員君の質問を終わります。

次、八番議員松下正己君。

（八番議員松下正己君登壇）（拍手）

○八番（松下正己君） 私が本定例会に通告しておきました次の点についてお尋ねいたします。

行政組織条例の見直しについてですが、その中でも青少年健全育成關係のみにしぼりここに取り上げ、質問していきたいと思

います。
市長は五十一年施政方針の中で全面的な機構改革をうたっていました。五十二年三月、私の通告質問の答弁で、市長は、行政の各分野が相互に連携し、弾力的に協調し合える流動性が要求される現在と申しております。確かなことでございます。窓口が多ければ、このようにしなければ万全な運営はできないと思います。たとえ流動性と協調性が必要であるとしても、窓口を数多くもつておるといふことは事務掌握、運営の点で決してプラスであるとは考えられません。

そこで、窓口が三方に分かれております青少年健全育成關係を、行政組織見直しという形の中で取り上げねばならなかった理由がそこにあると思います。

現在、分かれておつても、事務掌握、運営には行政側としては何ら支障は来たしておられない確信を持っておられることと思

六つの青少年関係事項をもち、中でも事業をもってありますものに青少年相談員、青年館、学務体育課ではスポーツ少年団、市体育協会、社教文化課においては公民館、婦人会館、子供会と健全育成事業をそれぞれのもっており、この傘下にあります各育成組織が年間十指に余る事業を持つておると聞いておりますが、そこで考えられることは受け入れ側の器ということになります。

受け入れ側である子供さん一人一人に対して、少なくとも十指に余る事業への参加が要求されることとなるのは必至であり、これにスポーツシーズンである十月、十一月に至っては各組織の調整のないためと相まって日曜日ごとに子供はその事業の声かけの中で参加団体の選択を求められ、かなりの負担となっている事実が明確であります。

組織が事業調整をすれば窓口は幾らあってもよいではないかと考えられますが、各近隣市町村におきましても課を統合し、窓口は社教となっており、また習志野市におきましても社会教育部に一本化されておると聞き及んでおります。

これらを考えるとき、行政側からの姿勢の中で組織がえにより一本を化することが当然であり、一本化によって事業数、内容の掌握がなされることによって、中身の濃いものになると考えられます。

受け入れ側は、ただ参加すればよいと考えられがちですが、参加にはまず安全性が強く責任化されております。決してこれらのことを見逃すことはできません。

これから伸びゆく子供たちを、健全育成という考え方の中で事業課の犠牲とさせては、せっかくの事業もそのたてまえが疎んじ

られるような結果となる事態は免れないことと考えます。このような状態の中では、とても年齢差を越えた子供同士のつながり、日常活動の中でボランティアの育成も不可能となることでしよう。

以上をもって私の質問は終了しますが、御答弁によりまして再質問をいたしたいと思います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 松下議員の御質問にお答えをいたします。

御質問の趣旨は、青少年健全育成問題を中心として行政組織条例を見直したらどうかという御質問でございますが、まず関係の皆さま方が青少年のために大変御努力なさって下さっていることに感謝を申し上げる次第であります。

この問題につきましては、上部機関の組織や実際に活動する関係団体の関係もございまして、各地で研究を要する問題として検討されているように聞いております。

本市でも、昭和五十二年度の組織の見直しでは社会開発課が発足し、同課に青少年係が設置されました。社教文化課の行事とも関連が深いことから、社教文化課職員を社会開発課へ兼務させる等もいたしまして、その調整をいたしておるところでございます。

しかしながら、行事の主催者、目的が異なりまして、その対象者は同じ青少年であること等も考慮いたしましたして、コミュニティ係を中心に青少年係、社教文化課、学務体育課等ともさらに連絡を密にいたしまして、調整、検討を加えたいと考えております。

○八番（松下正己君） 再質問いたします。

ただいま市長さんの御答弁を聞きますと、社会開発課に青少年係をつくったことによって青少年健全育成事業の大体の形はでき

たんだと、何かそのような感じに受け取れますが、いわゆる子供さんたちがこのような立場に置かれているということを市長さんは御存じだったか。また、それを理解されておったならば、もっと組織の中で考え方があったんではないかと私は考える次第でございますけれども、この点について市長さん個人の御意見をお伺いしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 確かに、所管課がいろいろ違つてしかも対象者は青少年であるということで、いろいろな行事の調整ができていないということについては私も十分聞いておりました。そういうことで社教文化課の職員を社会開発課に兼務させて、コミュニティ係等を中心にして、そしていろいろな行事の調整を図ってきたわけでございます。今後もそういう方向でいきたいとそう申し上げたわけでございます。

○八番（松下正己君） いまの点け了解します。

それでは、二期目を迎えますして市長さんにはいままでの公共事業費等の受益者負担の行政から福祉拡充への行政の再検討を考えておられるように見受けられますが、その考えをお持ちであるならば、健全育成事業の窓口の一本化にも早急の措置をしてしかるべきではないかと私は思うわけでございます。各組織の事業内容掌握、調整はもとより、行政側からももう少し前向きな姿勢の中で見直していただきたいと私は思っておりますが、いまの御答弁にさらに加えていただきまして、市長さんの今後の姿勢をひとつお聞きしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○市長（半澤良一君） 確かに各課の連絡調整ということは非常に

大事なことでございますが、それを一層今後——基本的に機構改革の場合には横のつながり、流動化ということを中心に考えてきたわけでございます。青少年問題につきましても当然そういう考え方でいきたいというふうに考えております。特にこのための課をつくるということとはしたくない、課の増設はしたくない、あくまでも横のつながりを密にするという方向で御期待に沿える方向で検討したいと思っております。

○八番（松下正己君） そうすると、いまのお話ですと、コミュニティ係に全部を掌握するような形づくり、いわゆるそういう課を別に増設しないで社会開発課の中で全部取り扱っていくというような御答弁でございますけれども、社会教育法という中にも生まれたときから老人教育までの生涯教育の中でといわれておりまして、社会教育自体は社教でやるべきものであり、この点は社教が窓口となって当然だと私は思います。なお地域ぐるみの連帯性、コミュニティにつながっていく重要な課題でございますので、これから私の質問の趣旨を納得していただきまして、早速前向きを見直しをされるよう要望して、私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で八番議員君の質問を終わります。

次、三番議員穴戸寿夫君。

（三番議員穴戸寿夫君登壇）

○三番（穴戸寿夫君） 今定例会に通告いたしました三点につきまして質問の趣旨をお話し、市長の答弁を仰ぐ次第です。

まず最初に、市民センターの利用状況についてですが、館山市民の文化、スポーツ等の行事の中心であることはもとより、市内商工業者の展示即売会場としても利用され、また歌謡ショー等

市民のいこいの場としても有効的に機能していることは周知のとおりでございます。しかしながら最近市外業者による物品の販売安売りセール等がかなりの件数に達してあるように見受けられますが、このことは市内の卸売り、小売業者にとってかなりの影響を及ぼすのではないかと思います。そこで最近一年間の市外業者による物品の展示即売会が何件あったか、延べ日数は何日ぐらいになるかお聞きします。

前年度との比較はどのようになっていますか、合わせてお知らせ下さい。

また、このような業者より購入した品物について、消費者からの苦情はなかったか。もしあった場合には件数と内容についてお聞かせ下さい。

また、同センターの食堂に係る契約内容について教えて下さい。

次に、二期目を迎えた半澤市政は過去四年間に積み残した事業をこれからどのように遂行していくのかお聞きします。

特に、城山公園を中心とした観光施策についてですが、現在史跡発掘の事業を推進しておりますが、それとは別に四季型観光を目指す館山市にとって城山を観光の一拠点として開発するお考えをもっておられるものと信ずる者ですが、どのような計画をお持ちになつておられるのかお聞きします。

次に、沖ノ島開発と取り付け道路についてですが、同公園は市民のいこいの場、またコミュニティの広場として館山青年会議所の開発計画に基づいた事業の推進を図っていくと話されたことを記憶しておりますが、その後どのようになったか。また取り付け道路のその後の経過をお聞かせ下さい。

次に、鏡ヶ浦の海浜公園としての計画についてですが、パンフ「ックコンサルタント株式会社による館山市海浜開発診断報告書」に基づいた開発計画を策定されたのかお聞きいたします。

今年の夏ヤシ並木の整備を行い、非常に明るく美しい海辺が形成されましたが、一部個所は整備されずになりましたが、どんな理由によって整備されなかったのか、今後の開発計画に影響はないのかお聞きします。

第三点目は、市内新井にある水産試験場跡地は一部観察池等が作られておりますが、公園や広場の少ない館山にとってあのような場所はまたとない広場だと思えますが、県より払い下げを受けるか、借り受けをする考えはないのかお聞かせ下さい。

特に、新井、下町地区は子供の遊び場も少なく、この跡地の公園化を望む声は地区住民内に出てきておる実情です。

以上三点について御答弁をお願いいたしますが、今回通告したものはいままでは何回となくお聞きし、御答弁をいただいたものもあります。二期目を迎えられた半澤市長の新たな計画があればそれも合わせてお聞かせ願いたいと思います。

通告質問をし、答弁をいただく、ただそれだけのやりとりでは少しの爽りもないような気がしてなりません。誠意ある御答弁をお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

(市長(半澤良一君) 矢戸議員の御質問にお答えいたします。

大きな第一点は、市民センターの利用状況についてでございますが、市外業者による物品販売についての御質問でございます。

市民センターの利用状況につきましては、五十二年度において

全体で八百七十四件、千三百六十三万円の収入がございました。五十三年度はこの十一月までに六百三十七件、八百九十八万円の使用料収入を得ておるわけでございます。

使用者については、市内、市外と区別した使用料を徴収しておるわけでございますが、使用目的が販売行為であるときは規定料金の十割増の使用料をいただいているわけでございます。

市外業者による販売行為は、五十二年度三十九件、五十三年度十一月末で二十九件でございます。その内容は衣料品、家庭用品、食料品販売等でございます。延べ日数につきましては資料の持ち合わせがございませんので、後刻お知らせをいたしたいと思ひます。

この市外業者による販売が市内業者に影響があるかどうかという御質問ですが、特に著しい影響はないように思っておりますけれども、もしそれがあるということになりましたら今後十分に検討いたしたいと思ひます。しかし、現在の使用規定に抵触しない限りちょっと規制することは困難があるように思われますが、いずれにしてもそうしたような状況があるとすれば検討いたしたいと思ひます。

同センターの食堂の賃借料のことでございますが、経過を申し上げますと、四十三年の五月に市内業者に月八千円で賃借をしたのが最初でございます。四十四年十月にそれを解約しましてその後しばらくは空き室になっておりましたが、四十七年五月に現在の業者に賃貸いたしましたとして、賃貸料は月一万円でございました。契約期間は二年間ということでございます。四十九年の五月に月二万円と改めまして現在に至っております。

この賃借料の額につきましては、いろいろ各地のこうした公共の建物の中の食堂等でございますが、それぞれ環境とか規模などが違っておりますので他と比較することは困難でございますが、次の契約更改時——本年の五月に契約をしましたので五十五年五月に、十分検討の上適正なものとするように考えております。

次に、私の施策として今後積み残した事業をどうするかということでございます。特に三点を挙げての御質問でございます。

城山公園を中心とした観光施設ということでございますが、御案内のように昭和三十九年山頂に展望台を建設して以来、四十二年のツツジの植栽、次いで翌年のクジャク園の開設と公園としての整備に努めてきたところでございますが、昨年の九月の議会で申し上げましたように、城山の南側にあります国有地を公園区域に含めまして、今後一層整備を図りたいと考えているわけでございます。

現在行われております発掘調査の結果を踏まえて、そしてこの調査を私といたしましては城山に関する学術的研究の決定版にいたしたい、今後はこれ以上学術調査の必要はないというまでの調査をいたしたい、そんなふうに考えておりますので、その調査結果を踏まえて城山公園の総括的な見直しをしたい、そして公園化の検討を図りたい、そんなふうに考えております。

第二点は、沖ノ島の開発と取り付け道路の件ですが、御案内のように館山市は全長三十一・五キロメートルの海岸線を有しております。この自然に恵まれた観光資源の活用をどうすべきかということは大変大きな問題でございますので、パシフィックコンサルタントに海浜開発を中心といたしました診断を依頼してまいり

ましたところ、このたび報告がございましたので、皆さんのお手元に御報告いたしましたとおりでございます。

その中にも書いてございますように、沖ノ島は周囲九百メートル、面積四・五ヘクタールで、島の規模、容量は小さく、大規模なレジャー施設はできないと考えますので、多様な植生を保有している島でもございますので、自然植物公園、また市民のいこいの場として自然を中心とした整備計画を検討してまいりたいと考えているわけでございます。

なお、沖ノ島への道路につきましては、鷹ノ島神社前から約二百メートルの間土地の手当ができましたので今年度舗装をいたします。またそれより沖ノ島までの間は県有地で現在県と折衝中でございますので、護岸の補修と合わせ早期整備したいと考えております。

第三点、鏡ヶ浦の海浜公園化計画ということでございますが、先ほど申し上げましたパシフィックコンサルタントの報告書に提案されております種々の開発につきましては、開発構想段階と申しますか、今後幅広く市民の意見、あるいはまた議員の皆さま方の御意見等を参照いたしまして、慎重に検討をいたしていきたい、そして館山市全体の観光レクリエーション関係構想といったようなものをまとめまして、実施可能な事業について年次計画に従って実施をしていきたい、そのように考えております。

北条海岸のヤシ並木の整備のことでございますが、前々からどうあるべきかという検討を加えておりましたが、本年学者あるいはそうした関係の方々の御意見を承りました、従来の方法ではやはりまずいのではないかとということで、そうした方々の御意見を

参考にいたしましたして、あの砂を取りまして一年間実験的にやってみたわけでございますので、そういう意味でまた予算の関係もございまして、全部について実施はできませんでした。この一年間の経過を見まして新しい構想で計画を立てたいとそんなふうに考えております。

それから大きな第三点、水産試験場の跡地の問題でございますが、御覧のようにこの土地はもと県立安房水産高校の学校敷地でございますが、学校では増殖科の池や施設を建設し、残るところにテニスコートや弓道場をつくるという計画を立てておりますので、市でこれを払い下げるといことはむずかしいというふうに考えております。

以上、答弁を終わります。

○民生部長（石井 謙君） 先ほど市長から後刻報告申し上げますということでしたが、物品展示即売の日数でございますが、市外業者九十三日、市内業者七十日、合わせまして百六十三日。以上でございます。

○三番（矢野寿夫君） 御答弁ありがとうございます。再質問させていただきます。

最初の市民センタールの利用状況でございますが、五十三年度いまままで二十九件、それで九十三日ということではよろしゅうございますか。

○民生部長（石井 謙君） そのとおりでございます。

○三番（矢野寿夫君） 先ほど市長さんは市内の小売業者にそんなに影響はないのではないかと、いうふうなお答えでございましたけれども、九十三日という三ヶ月間あそこに市外の業者が来て店

を張る、それも日用雜貨品が主になるわけです。そうすると、普通の食品は食べてなくなってまた買うというものですけれども、日用雜貨の中には家具、裝飾、そういうものもあるわけです。いわゆる耐久消費材のものが多くなってくるわけで、そういう業者に対する影響はないということは言えないんじゃないかと思うわけです。

それで、条例に抵触しない限りは貸さないわけにはいかないという現状は、いま現在もちろんわかりますけれども、今後の課題として、こういう業者に対する規制というものをある程度やっていくことが市内の小売業者を擁護するという意味で必要なことではないかなと私は思うわけです。大型店の問題とか、いろいろな問題が叫ばれている中でもって、公共の場所がこういうものに使われていくということはもう少し考えてみたらいいんじゃないかなというふうに思うわけです。そのことについて市長さんほどのようにお考えになっておられるか、もう一度お聞きいたしたいと思います。

それから、食堂の契約内容については了解いたしました。ただ、この五月の契約改更のときにもう少し見直しすべきではなかったかなというふうに思うわけです。月二万円というのはそんなに高いほうじゃないんで、もう少し高く取ってもいいんじゃないかと私は思います。これはこのままで了解します。

それから、城山公園についてですけれども、発掘調査の結果をみて総合的な見直しをしたいというお考えですが、いま現在、私も何度か質問申し上げましたとおり、城山公園はかなりの人が日曜、祭日、またサツキ祭りの時期になりますと入ってくるわけで

す。車も数珠つなぎになって坂の上に置いたりするような状況が毎年続いているわけです。それで進入路の問題、それから駐車場の問題、このことについて何回となく御検討願いたいということでお話してあるわけですけれども、いまだにそのお考えがないということ、私は非常に残念に思うわけですけれども、今後どのように検討されるかお聞きしたいと思います。

それからもう一つ、民間団体で里見城復元の推進協議会というのできてかなり活発な活動をされておるわけですけれども、先般も大多喜城のほうへ視察に行くというようなことを聞きましたんですが、いわゆる里見城の復元ということでもって、資料館とかそういう形のものであって、ああいふ城山の上に城を建てていこうという前向きなお考えが市長さんにあるのか、そのへんを聞きたいと思います。

それから、沖ノ島の問題ですが、これは自然を中心とした整備をするということですが、これは私も同感でございます。ただ今年の五月、館山青年会議所が十周年記念の記念行事の一つとして沖ノ島を中心に雑草を取り除きまして芝植えをやりました。かなりの日数と人力を注いであそこに芝を植えたわけですけれども、その後何の整備もされていない。たまたま十月に歩け歩け大会であそこに行くことになりました、前日にあそこでもって御飯が食べられるかなというところで見に行きましたけれども、もう草ぼうぼうでこれじゃしょうがないじゃないかということで青年会議所のほうに話しましたら、朝のうちに何人かで行ってきれいに草を刈っておいたという事実もございます。こういう会議所の若い人たちの館山をよくしていこうという意欲をもうちょっと市の

ほうでもって手助けしていただいて、草取りぐらいはやられてもいいんではないかなと思うわけです。

それと、その記念行事の中でもって百万円を市に預託してあると思うんですが、その使い道をどのように考えておられるのか、お聞きしたいと思っています。

それと、もう一つ防衛庁との関係ですが、聞くところによりまず、防衛庁はあの島を含めて鷹ノ島から全部払い下げをして防衛庁のものにしたいという考えも中には持っておるといふふうに聞いております。そういう場合に沖ノ島そのものは箱山にあって本来に大事な財産でございますし、もう少し積極的にいろいろな資料を取り寄せられまして、遺漏のないようにしていただきたいというふうに思うわけです。

鏡ヶ浦の海浜公園の整備ですけれども、これはヤシ並木の関係を私は取り上げたいですけれども、市長さんは予算の関係で一部しかやらなかったということですが、どのくらい予算が足らなかったのか知りませんが、二、三ヶ所うっそうと茂った木を残してあとをきれいにすること、市民の中でもかなり予算の関係だけではないかというふうな話も聞いております。本当に予算の関係だけだったのか、もう一度お答え願いたいと思います。

それから、新井の水産試験場の跡地ですが、学校施設としていろいろな弓道場とか、そういうものが決まっておるといふことですけれども、もう一度県と話し合って、ああいうような場所はないかな海岸線に沿ってはないかなと思いますので、ぜひもう一度交渉していただきたいというふうに思うわけです。そのことにつ

いてやっていただけるか、いただけないか、もう一度お聞きしたいと思います。

以上、再質問いたします。

○市長（半澤良一君） 市民センターの、市外業者に貸すことになって商店に対する影響はないことはないだろうというお話ですが、いままでのところそういった影響があるというお話は聞いておりませんのでないだろうという御答弁を申し上げたわけですが、もし影響があるという事実がございましたら検討しなければいけないと考えております。

城山公園の整備に関しまして、駐車場の件でございますが、これは以前に申し上げたと思いますが、駐車場をつくることは大変賛成でございますが、問題は土地の入手でございますので、この点についてはやはり地元の協力がなければ得られないわけでございますので、地元の方のむしろ積極的な土地の提供、あるいは提供とまでいかなくてもあつせんをお願いしたいというふうに考えておるわけでございます。

それから、里見城というお話でございますけれども、これにつきましてはこういう形式のものでできるとすれば一体どんな形でできるのか、そういうものを今後検討いたしたい。土地の問題もございまして、また資金の関係、あるいは補助金の問題、そういったようなことがございますので、そうした問題を考えまないとこれはできるとかつくるとか言えないわけでございますので、そのことを今後検討いたしたい、そういうふうに考えております。沖ノ島開発につきまして、青年会議所から百万円の御寄贈の申し出がございましたけれども、当時市におきましても具体的な開

発計画がございませんでしたので、御好意だけを受けておくという事で目録だけいただきました。資金の申し込みだけは受けたわけでございますが、お金はいただいてございませんので、青年会議所のほうで持ちちになって、保管していることと思います。

それから、道路に關しましてですが、防衛庁の關係もでございます。先ほど県に対していろいろ折衝中と申しましたけれども、県と防衛庁の關係のからみ合いがあることも事実でございますので、そうした問題も解決をいたさなければ市の独自の道路ということとはなかなかできないわけでございます。そうしたものの解決をまちたいと考えております。

海岸のヤシ並木の問題ですが、先ほど申しましたように予算の關係と実験的に一年間やってみる、それがヤシに結果的にいいかどうか、そういうことを検討したい、そういうことで全部実施できなかつたということでございます。

それから、水産試験場のあと地の問題でございますが、これは県のほうに意向を聞いてみることにやぶさかではございませんけれども、御存じのように水産学校の敷地そのものが広くない、高等学校としての必ずしも規定の面積をもっていないわけでございますので、大変困難かと思ひますので、先ほどそういう御答弁を申し上げたわけでございます。なお今後機会をみまして県の教育委員会に聞いていきたいと思ひます。

○三番（穴戸寿夫君） 御答弁ありがとうございます。

おおむね了解いたしますが、館山市海浜開発診断報告書という中にも書いてございますが、いわゆる公共主導により行い得るものという中に既存の海水浴場の整備、沖ノ島公園の整備等が入っ

ているわけでございますけれども、やはりああいうものは、民間のボランティアの力はもちろん必要でございますけれども、ある程度行政側も積極的に動かない限りちつとも進んでいかないんではないかなと思ひわけです。

城山の駐車場についても、地元の熱意ということを申されますけれども、私は何名かの方にそのことについて地元へ帰ってお話してございますけれども、やはり市が、じゃあここにこういう計画をして駐車場をつくらうじゃないかという計画案が出なければ、幾ら私どもが地元でもってあれしてもなかなか問題を解決していかぬのはむづかしいんじゃないかと思ひわけです。

そういった意味でもって、本当に真剣に検討していただいて、なるべく早くそういったものが実現できるように、これからの四年間市長さんに御努力願いたいというふうに思ひわけです。

以上で終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で三番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後二時 十分 休憩

午後二時三十一分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、次の三点について質問したいと思ひます。

第一点は、五十四年度予算編成にあたり、市民の要求にどうこたえるかという問題であります。第二点は、市職員の給与改善に

ついて。第三点は、水道事業における配管の管理についてであります。

まず、第一点の五十四年度予算編成にあたり、市民の要求にどうこたえるかという問題についてですが、先般私どもは予算編成に向けてアンケートで市民に要求を求めました。その中から六十二項目をまとめ、要望書として市長に提出してあります。いずれその実現方について市長と折衝することにしてありますが、要望書の中の幾つかについて質問したいと思っています。

まず最初に、市民要求に対する市長の基本的な考え方について伺いたいと思います。

次に、具体的な問題について伺いますが、その第一は社会福祉関係についてですが、社会福祉総務費の中の交通遺児、重度心身障害者の会、生活保護世帯等生活困窮者、寝たきり老人に対する見舞金など補助金や諸手当は五十年度以降据え置きになっております。高物価との関係でみれば実質的には切り下げになっているので増額する必要があると思いますが、お伺いします。

第二は、幼児保育についてですが、中央保育園は三歳未満の幼児を保育しているので三歳を超えると保育園から締め出されることになっていきます。いずれも保育に欠ける家庭の幼児であるため、三歳以上の保育園の設立を強く要望しております。市長はどう対処されるか伺います。

第三は、学童保育のための児童館の建設についてですが、最近小、中学生の非行化や自殺が増加し、社会問題になっております。このような状況から、学童保育の必要性が強く求められております。館山市の市街地だけでかぎっ子といわれる留守家庭の学童が

一年生から六年生まで六百十一人いるといわれ、これらの子供は放課後親が仕事から帰るまでどこかで時間を過ごしているものと思われまます。このような現状は健全な青少年を育成する上から放置できない問題であろうと思います。

私は、十一月初旬に釜石市と白石市を視察しました。釜石には四つの児童館、白石には二つの児童館があり、放課後の児童が生き生きと学習したり遊んだりしていました。両市とも勤労青年会館もあり、青少年の育成に努力していることがうかがえました。館山市は人間尊重、市民生活優先を基本理念とし、教育、文化、福祉都市の実現をスローガンにしているためまえから、児童館の建設が必要ではないかと思いますが、市長はどう対処されるか伺います。

第四は、道路交通関係についてですが、中央保育園入口の道路は保健所の敷地によって狭められ、幼児の送り迎えが同時刻になる関係で、車の通路に支障を来しております。道路を拡幅してもらいたいという強い要望がありますが、どう対処されるか伺います。

また、中央公園図書館付近は、駐車場があるために車の出入りが多く、交通に支障を来しております。道路を拡幅するか、側溝にふたをするか、一方交通にするか、いずれか実施してもらいたいという要望がありますが、どう対処されるか伺います。

次に、これらを実施することと関連する財源問題についてですが、最近自治省は財政危機の中で一般消費税の導入によって地方財源が得られるとして一般消費税の導入に賛成していると聞いていますが、市長はどのように考えているかお伺いしたいと思います。

す。

第二点は、市職員の給与改善についてですが、市職員は市民への奉仕者としての責務を果たす立場に置かれています。したがってその任務を完全に果たすためには安定した給与が保障される必要があります。そこで毎年給与改定がありますが、その上昇率はいつも物価上昇率を下回、たものになっています。その上民間ベースより低い率に押さえられているのが実情であります。市長はこの点をどう考えるかお伺いします。

また、今議会に給与改定の条例案が上程されていますが、その基本的な考えについてお伺いしたいと思います。

第三点は、水道事業における配管の管理についてですが、市内の一部に房州水道当時五十ミリ管を何軒かで負担して配管したことを理由に新たに水道に加入しようとする者が拒否されている例があります。市営水道のもとでこのような私権が存在することは公平の原則に反するものと思いますが、配管の管理をどのようにされるのかお伺いします。

詳細については再質問で行います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 渡辺議員の御質問にお答えをいたします。

五十四年度予算編成にあたって各種の御要望がございましたが、その第一点の交通遺児、重度心身障害者の会、生活保護世帯等生活困窮者、寝たきり老人に対する見舞金、補助金、諸手当を増額する考えがあるかという御質問でございますが、この問題につきましましては今後十分ひとつ検討してまいりたい、そんなふうに考えているわけでございます。

生活保護世帯に対する見舞金等につきましては、歳末には生活困窮者に対して歳末助け合い募金からの配分もあり、合わせてこれを贈っているわけでございますので、そうしたことも考慮しなければいけませんし、また補助金の交付につきましましては補助団体等の実態に即して補助を行う考えでございます。

中央保育園に合わせて入所年齢を三歳以上にする保育園設立の要望があるが、これに対していかに対処するかという御質問でございますが、保育園は国の基準に基づくものでございますので、三歳以上のみを対象とする保育園の設置はできないわけでございます。中央保育園は市民の需要にこたえて年齢層の低い子どもを主体として開設したものでございます。保育に欠ける子どもの措置状況、増減等今後の推移を見守りたいわけでございますが、同時に市内にはほかに公立及び私立の保育園が十園ございますし、そうしたこともやはり考慮しなければいけないというふうに考えているわけでございます。

児童館の建設についての御質問がございましたが、留守家庭の児童対策、学童の健全育成という面で実情を民生児童委員の協力を得て調査をしているところでございます。いわゆるかぎっ子といわれる子供にありましては近隣住民等の援護を受けている者も相当ありまして、これらの調査結果を考えていきたいとそのように考えているわけでございます。

昨年の十二月の市の教育委員会の調査によりますと、御質問のように六百十一名というようにございすけれども、やはり親戚とか近所の住民でめんどうをみているというものを除きますと、実態は百十名ぐらいだろうという結果も出ているわけでござ

ございます。こうしたことを考え、児童館を建設するのがいいのか、あるいは他市にございますような児童育成クラブといったような形で公民館とか青年館等を利用してそうして学童保育にあたるということ、民間ボランティアの力を借りてあたるというようなことも当然考えられるだろうと思うわけでございますが、いずれにしてもそうした実態を十分把握しました上で検討いたしたいと思ひます。

中央保育園入口の道路の拡幅の件でございますが、これは昭和四十八年にこの道路を拡幅しようとして話をいたしたわけでございますが、保健所の敷地が狭いということで協力が得られませんでしたので、道路わきの側溝にふたをかけて広く使用できるようにいたしました。現在のところ土地の協力が得られない限り拡幅することは困難でございます。

それから、中央公園の図書館付近の道路の拡幅でございますが、これも昭和四十八年にこの道路を一方交通にしたいということで地元と話をしていただきましたけれども、地元の了解が得られませんでしたのでそのまま現在に至っております。用地買収をして拡幅するということは現在のところ非常に困難であると思われまふので、側溝にふたをかけて広く使えるようにして交通安全を図ってまいりたいと思ひます。

また、この問題にからめまして、一般消費税の導入についての御質問でございますが、一般消費税の創設につきましては、政府税制調査会の特別部会試案として九月十二日その報告が発表されているところでございます。その概要は、国、地方を通じての未曾有の財政危機を打開するためには、現行税制のままの自然増収

のみではとても解消することはできませんので、したがって財政収支の不均衡を是正するためには、新税の導入に頼らざるを得ないという事情を背景といたしまして、現在検討されているところであります。

特に、本税は一般的な消費支出に関連して国民に広く税負担を求めるものでありますので、政府においても景気の動向、あるいは物価の安定等、慎重な検討がなされておるところでございます。

現時点では、その具体的な内容、実施の方法、導入の時期といったものが示されておりませんので意見を申し上げるわけにはまいりませんけれども、いずれにしても国民の十分な理解を深めた中で円滑な地方財政の運営ができるよう期待をいたしたいと思ひます。

質問の大きな第二点、市職員給与の改善についてでございますが、先ほども御答弁申し上げましたように、地方公務員の給与等につきましては社会情勢に適応をするよう措置しなければならぬことから、国の人事院勧告並びに県の人事委員会勧告がありまふとその都度県に準じまして改定をしてみたいわけでございます。

現行給与制度からしますと、本市の場合上部団体である千葉県の人事委員会が行います勧告を尊重いたしまして給与の改定をすることが最も適切な、公正なものと考へております。

大きな第三点、水道における配管の管理についてでございますが、配水管の管理は水道事業者でございます市が管理しているわけでございますが、中央水道の一部の地区におきまして房州水道当時新規に配水管を布設した際加入者で工事費の全額を負担した

管がございます。この管から水道を引く場合、当初工事費を負担した加入者の同意と工事費について一部の負担をして加入しているのが現状でございます。このような管についても、市の水道として管理しておりますので、関係者の協力を得まして早期に解決をいたしたい、こう考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 再質問いたします。

市民の要求に対する市長の考え方をお聞きしたんですが、具体的な問題では御答弁があったんですが、基本的な、市民の要望にどのようにこたえるかというようなことでは答弁がありませんでした。この点については、市民の要求に対する——要するに地方自治体は市民の要望にこたえるというのが自治体側の行政の立場だろうと思っておりますので、この点は抜けていたように思います。

それから、福祉関係についてですが、実際に予算面で見れば五十年前から据え置きになっていきます。市長の答弁では今後検討するということですが、生活保護者に対する年末手当は差し迫った問題でもありますし、これは募金と一緒にということの考え方があるわけでござりますが、募金は募金として別の問題であって、市では一件当たり三千円ですか、そういうようなことになっているんですが、物価高の中で三千円というのは非常に少ないのではないかと。

交通遺児にしても同じようなことですが、これは数に制限がありますので予算面を見ても五、六十万円、百万円以下の非常に低い予算になっているわけです。もちろんこれは補助をする団体の問題もありますから、その点も十分調査する必要があると思うん

ですが、特に手をつなぐ親の会というのは重度心身障害者六十名ぐらいですか、この会は非常に不幸せな子どもが、またその子供を持った家庭、そういう人たちがお互いに励まし合って、そして恵まれないこれらの子供に対して幾らかでも助成しようとするというような会ということを知っておるわけでございます。若千五万円くらい増額になったと聞いておりますが、毎回問題にしていますが、こういう問題についてももう少し温かい気持ちを持って対処される必要があるんじゃないか。この問題言っても、市長は検討するということですから、そういう方向で検討をしてもらいたいと思います。

それから、三歳以上の保育園は、国の基準で三歳以上ということとは、確かにそうかもしれませんが、大体ゼロ歳児から四、五歳児まで保育園といいますが、あるいは保育所で厚生省の管轄でやられているわけですが、私がここで言う三歳以上というのは三歳以下も含まれているわけです。北条地区には公立の保育園は中央保育園だけ、ゼロ歳児から四、五歳児までみている保育園はアンデレ教会とキリスト教会の二つの保育園。

館山で初めて二年前ですか、乳幼児の保育所ができたわけですが、これは三歳児までに制限されている。やはりこれと併設してゼロ歳児から四、五歳児までみられるような保育園がないと、保育に欠ける家庭は幼稚園にもやれないわけです、送り迎えが必要ですから。それでそういうことができない家庭の子供が中央保育園に入っているわけなんです。おいおい三年になりますと、ゼロ歳の子供でもどっかの保育園に行かなければならない。そういう実情に迫られているわけです。二歳で入った人はすぐにでも出

なくちゃいけないというような関係があるわけです。これは幼稚園教育まで保育に欠ける家庭の子供は受けられないわけです。保育園の中で四歳、五歳の教育をどうするかということは、これは学校教育法に基づく関係もありますから、そこまでちゃんとやっ
ていかなければならないと思うんです。

こういうことで、あそこを出された子供は、たとえば北条地区で二つの保育園に入れないということになりますれば、こういう子供は結局放り出されるわけです。そして幼稚園にまでもいけないというような事態になるわけです。館山市の保育行政みれば、これは市街地には少ないわけです。那古だとか船形、そういうところはありますが、北条地区には一つしかないだけで、したがって公立の保育園をぜひつくってもらいたいということが、ゼロ歳児から三歳児までを含めて中央保育園に併設するような形でできないかという質問なんです。

学童保育の問題については、実態調査をした上でということになっておりますが、先般この問題を取り上げたときの資料で、これは社会開発課で調べたんですが、確かに保育を要する児童の数というのは百十名というように出てます。しかも一年生が三十二名もあるわけです。こういう子供らが家へも帰れないでどっかぶらぶらしているという状態を放任しておいていいかということです。

これは、専門の保育所というまでもなしに、児童館といえどもっと幅広く、そういう子供たちも収容するし、それからもっと広く児童が利用できるような、しかもそこで学習したり、遊んだり、健全な方向に行けるような施設として児童館の建設というのはほか

の市で進んでいるんですよ。

青少年の育成というものを全部みて、そういうような形でやっ
ていくんですから、館山市でやろうとすればできないはずはない
と思うんです。特に人間尊重、市民生活優先ということで教育文
化の福祉都市というような大看板を掲げているわけですから、そ
ういう点ではもっと重視して取り組む必要があるのではないかと
。

市長の話では、実態を調査した上でというように考えています
が、実態調査はすでに百十名という要保護者の数が挙がっている
わけです。そういう点の必要があるうと思えますが、その点でも
う一度市長の積極的な考えをお聞きしたいと思います。

それから、中央保育園の道路の問題ですが、四十六年に保健所
と交渉したというふうに聞いていますが、そのときにうまくいか
なかったから今日まで協力を得られずにいるということですが、
この点では保健所といえども公共の福祉ということのためまえに
立てば、やはりある程度の土地の問題について譲歩しなければな
らないことじゃないかと思うんですが、この点については保健所
と積極的に交渉をして、あの道路を拡幅するような考えが――あ
きらめちゃっていてやらないのか、これからやるのかという点で
非常に不明確ですが、積極的に保健所と交渉して広げる努力をす
る考えがあるのかなのか、この点を重ねてお伺いしたいと思います。
ます。

中央公園の図書館前の道路ですが、ここは拡幅するのは、中央
公園の敷地を削れば拡幅できるし、もしできないとすれば側溝に
ふたをするぐらいのことはできると思うんです。一方交通にしろ
というような要求もありますが、これは当然車がふくそうすれば

あの道路の狭さからいって一方交通にするとかいろいろな手段があると思うんですが、とりあえず側溝にふたをするというくらいことはできるのではないかとというふうに考えますので、やるとすれば次の五十四年度の予算でやるかどうか、その点をお伺いしておきたいと思ひます。

それから、一般消費税の導入の問題では、これはまだはっきりしないので意見は述べられないが国民の理解の上で、というような話がありました、一応私のほうで調査した問題についてお話ししたいと思ひます。

一般消費税の導入で自治省が賛成しているということは、地方財政が潤うんじゃないかという幻想があるわけです。共産党の政策委員会が調査した試算は、全国の都道府県、市町村、そういうようなところで一般消費税の配分と自治体の支出について出ていますので——時間がないので詳しくは説明しませんが、都道府県の場合で一般消費税の配分額がどのくらいになるかといふと、四千二十八億円が一般都道府県の場合で、しかし支出増しが五千四億円というところで、九百七十六億という支出増しになるわけです。市町村の場合は五十一年度の決算ベースで調査したものです。一般消費税の税収入によって配分されるのが三千三百三十七億円、支出増しのほうは四千九十四億円になっています。差し引き七百五十七億円が支出増しということになるわけで、決して一般消費税の導入によって地方財源が潤うというようなことはこの資料からは出てこないわけです。

したがって、これははっきりしないようですが、大平さんが総理大臣になってこれから予算編成が行われますが、五十五年の一

月から実施したいというのが政府の意向だと思ひますが、大体導入のほうがかなりはつきりしていますが、この問題については一般の国民に大きな負担になり、物価高でインフレにつながる危険もありますし、非常に重要な問題ですから、この点は十分研究して、地方行政に利益にならないということであつたら反対の意思表示をしてもいいということ要望として付け加えておきます。

それから、第三点の水道事業の配管関係についてですが、これは房州水道は館山市が買収したわけですから、配管も含めて買収しているわけです。当時の日本水道協会では七千三百万ですか、それを買収度をみて一億で買収したわけです。しかし市営になつた以上は全部の配管を市で管理するのは当然だと思ひます。房州水道時代にその一部の地域の住民が配管を全部金を出してつくっても、現在ではその住民の所有ではないと思ひます。市が管理している以上市が責任を持つべき問題だと思ひますが、それが地元のそういう人たちによって新しく水道に加入しようとしている人が拒否されているというのは全く不公正だと思ひます。市の提供する役務を等しく受ける権利があるわけです。

そういう立場からすれば、この問題は解決しなければならぬ問題ですが、市長は地元の同意と一部負担というようなことでやられているところもあるというようなことで、そっちのほうに問題をずらしているわけです。市民全体の立場からみれば、市営水道に加入するということは当然市が管理している以上認めなければならぬと思ひます。これはおそらく楠見の件を一つ取り上げていっているわけですが、そのほかにも四、五件あるというふうに聞

いていますが、一体こういう問題をどう解決しようとするのか。解決の方法とすれば、市長の言っているように、管を金を出して引いた人たちの合意を得るということは、これは当然市とすればこれからの配管を考えていけば、水が出ないということからもっと配管を大きなものにかえなければならぬ責任も出てくるわけですよ、小さければ。

そういうことを考えてくれば、市の責任で、新しく加入しようとする人を加入できるようにしてやる責任があると思います。それをどうするのか。たとえば、どうしても地元で頑強に合意が得られないとすれば、新しい加入者は遠いところから給水管を引いてこなければ水道は引けないわけです。そういう場合に五十ミリ管に引くまでの距離の給水管の負担を市のほうで負担するかどうか、当然こういう考えが起るわけです。一体どのようにしてこういう問題を解決しようとしているのか、それをお聞きしたいと思います。

それから、職員の給与問題についてお伺いしますが、市長の答弁は、石井議員の時には聞いていますが、一貫しているのは、国の人事院、県の人事委員会の勧告を尊重して決めたということを言っているわけです。

そういう問題に触れる前に、職員の給与の基本的な考えについてお伺いしたいと思うわけなんです。公務員は地方公務員といえども給与を含めて身分保障があるはずで、給与というのは給料と定期昇給と期末手当の三つが給与になっているわけです。これは当然先ほど申し上げましたように市民に奉仕するというのが地方自治体職員の立場であります。当然市民に奉仕するからにはそ

れを果たすための責任を負わされているわけです。そのための身分保障がある、その身分保障は地位の保全と同時に労働に対する対価ということでもあるわけです。だからこの給料、定期昇給、期末手当の三つを一つの労働の対価としてあるというふうに考えますが、その点は市長はどのように考えているか、お伺いしたいと思います。

それから、給与水準の引き上げについて国家公務員と地方公務員の関係は、当然これは国家公務員に準ずるのがたてまえです。県人事委員会の勧告があったからといって国家公務員に準ずべきものがダウンされるといふようなことは、これは基本的な方針に反すると思うんです。国の決めたベース水準は三・八四%、県のほうは二・九五%にしろ、こういうふうになっているわけですが、県人事委員会の勧告を尊重するといっても正しいのかどうか、国家公務員に準ずるといふことを県人事委員会が勝手に切り下げているのか、そういう問題も一つあるわけです。

先ほどの答弁では、民間会社の五十人、百のところを調べたというようなこともあります。国全体として給与水準というのは決まったわけです。しかも県の場合はそういうふうには決まっても、各地方自治体はそれぞれ置かれている条件が違うわけです。条件の違うところを一律的にそういうような形で勧告したらそれに従ってもいいのかという問題があります。その点もひとつお伺いしたいと思います。

これは、石井議員も言いましたが、地方自治体には自主性があるはず、確かにそのとおりだと思ふんです。人事委員会の勧告が出たからそれに従わなければならないというようなことではない

と思うんです。市長は従来そういう方向をとってきたと言っていますが、この前の五十一年の三月の給与改定の際には延伸を六カ月、九カ月やっています。これは県人事委員会勧告に基づいてやったわけではないです。その当時三億余の赤字財政の困難な中で、市の財政事情から昇給延伸がやられているわけです。これは市の自主性でしょう。そういう自主的な立場から昇給の延伸をやっている、今度は県の人事委員会の勧告があったからそれであるということではだいたい事情が違ふと思うんですが、この点はどういうふうにお考えになっているか。

もう一つ、既得権利の問題についてお伺いしたいと思うんです。というのは、先ほども言いましたように職員は身分保障があるはずで、しかもこれは給与を含めての身分保障であつて既得の権利であります。それを減らそうとか、そういうようなことは懲戒処分以外ではできないはずで、そういうものに該当するのがこの職員の給与に対する既得の権利だと思ふんです。これを剝奪するということはよほどのことがなければできないことです。そういう基本的な考え方からすれば、これは例としては懲戒処分ですが一応人事委員会の勧告が出たからといって、すぐにベースを三八四%から二・九五%までに減額するということは、既得権利を侵害するものとして問題があると思いますが、その点はどういうふうにお考えになるのか。

館山市とすれば、いままで市長は欠員を不補充ということとで人減らし合理化をやってきたわけです。定員を削減しています。そういうことでは市の職員はそれだけ労働強化を押しつけられているわけです。このように市の職員は人減らしの中でそれだけ多く

の労働をしている、むしろ給与は上げなければならないような状況なのに、逆に労働強化の上にさらに引き下げるといふようなことは一体どういうことなのか。人事院の勧告といえども、自主性の問題と合わせてお伺いしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 市民の要求を五十四年度予算編成にあたつてどういうふうにかたえるかというお話でしたが、これにつきましてはいつも申し上げておりますとおり、市行政はバランスのとれたものでなければならぬと思います。そのためには、行政運営の理想を追求しつつも、拡大、多様化する市民の行政需要に対し限られた財源を効率的に、しかも重要度、緊急度の高い事業を計画的に選択して行政投資を行わなければならないと考えております。

こうした観点から、昭和五十四年度は補助金や起債等特定財源の確保のできる、特に本市が立ち遅れている生活関連事業と教育施設の充実、整備を図っていきたいというふうに考えているわけでございます。

補助金等につきましても、先ほど答弁申し上げましたように、その実態によつて補助金を考えているわけでございます。御指摘のございました手をつなぐ親の会は、昨年五十二年度は五万円でございますが、五十三年度は十三万円と大幅にふやしているのが実態でございます。

それから、保育園の併設と申しましょうか、中央保育園の年齢を引き上げることでございますが、現状のまま定員百名でございますので、一〇〇%収容しておりますので、現状のままでは年齢を引き上げますと年齢の低い子供が入れられないというこ

とになるわけです。いまの状態では敷地の関係、建物の関係がありまして、すぐにはできませんし、また当然市内の、ほかに私立保育園を含めまして十の保育園があるわけでございます。そういうところへ転園する子供たちもいるわけでございます。はたしてどれだけの需要があるのか、ぜひそれがなければならぬのかということは大きな問題だろうと考えております。そういう意味で他の保育園の収容能力等を考えなければいけないというふうに考えているわけでございます。

それから、児童館の件でございますが、これも先ほど御答弁申し上げましたように百十名ほどの要保護児童がいるわけでございますけれども、地域的に分散しているものでもございますし、そういう意味もございますので、そうした地区の公民館とか青年館を利用した育成クラブとでも申しますか、そういうものを利用した方法のほうがより実態に合うんじゃないか、そういう意味で検討いたしたいと申しした次第でございます。

中央保育園の道路の問題でございますが、経過は先ほど申ししたとおりでございますので、保健所といえども公共のためだから敷地を提供すべきだというのも一つの御意見でございますけれども、これは先方の立場もございまして、ここで引き受けして拡幅するというお答えをするわけにはまいらないわけでございます。

中央公園のそばの道路につきましても、先ほど申し上げましたように、一方交通にしたいという要望がございましたけれども、地元で了解が得られなかったわけでございます。買収をして拡幅するということは、中央公園部分につきましては考えられないわ

けではございませんけれども、その他についてはやはり非常に困難なわけでございます。当面側溝にふたをかけて広く使えるように考えたい、そういうふうに申し上げているわけでございます。給与の点につきまして、改善につきまして、給与というのは労働の対価であると思うがどうかということでございますが、そのとおりだと思います。

それから、ベースアップは既得権だというお話でございますが、ベースアップそのものはそのときの社会情勢、経済情勢に応じて給与のベースを上げることだと思いますので、既得権だとは考えられません。

また、人減らしをし、労働強化をしているというお話でございましたが、人を減らす前の定員がはたして適正な人員であったかどうか、そういうことを見直して、必ずしも適正ではなかったんではないかということを上上げておるわけでございまして、その方針に従ってやってきたわけで、もし私の申し上げておりますようにその当時が過剰人員であったとするならば、決して労働強化につながるものではないと考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一八番議員君の質問を終わります。以上で通告者による一般質問を終ります。

散

会 午後三時二十分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。次会は明十二月十九日午前十時開会とし、その議事は各議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件

